



京機短信 特別号

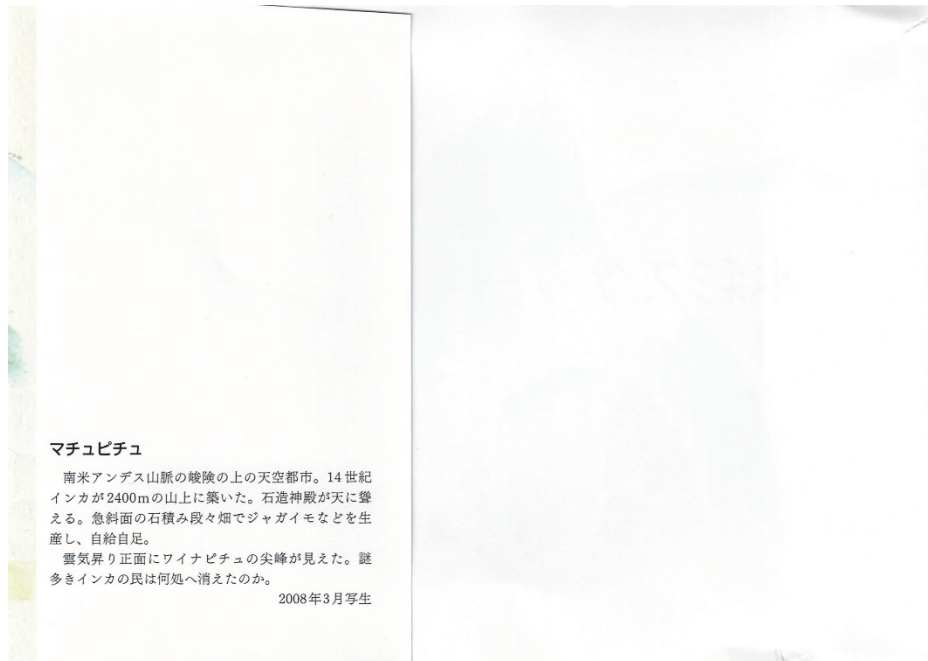
KEIKI short letter

No.365 2022.02.23

京機会(京都大学機械系同窓会) tel. & fax. 075-383-3713

E-Mail: jimukyoku@keikikai.jp

URL: <http://www.keikikai.jp> 編集責任者 吉田英生



マチュピチュ

南米アンデス山脈の峻険の上の天空都市。14世紀インカが2400mの山上に築いた。石造神殿が天に聳える。急斜面の石積み段々畑でジャガイモなどを生産し、自給自足。

雲気昇り正面にワイナピチュの尖峰が見えた。謎多きインカの民は何処へ消えたのか。

2008年3月写生



水彩スケッチ紀行

・目次・

|           |     |
|-----------|-----|
| プロローグ     | 1   |
| I 初期の習作   | 3   |
| II 巨石文明   | 6   |
| III 欧州    | 16  |
| IV オリент  | 34  |
| V アフリカ    | 58  |
| VI シルクロード | 72  |
| VII 中国    | 102 |
| VIII 日本   | 132 |
| IX 太平洋    | 164 |
| X 北米      | 168 |
| XI 中南米    | 176 |
| 略年譜       | 186 |
| 印譜・謝辞     | 188 |

高松塚古墳再構築実験に参加させて頂き見聞を広めた。この頃透明水彩画の魅力に取りつかれ、大自然と史跡を精力的に画いた。又水墨画に志し、藤本胤峰先生の直接指導を受け、篆刻の楽しさを知った。スケッチに印を押すと印象に強く残る。画面より雰囲気が増える。外遊百回、画帳40冊となった。ここに紀行文を付し画集に纏めた。スケッチで綴る自分史である。

2015年 秋立つ日  
下間 頼一



畏友 Prof. C. Pier のサイン

プロローグ

1926年(大正15年)夏、京都に生を享けた。東西両本願寺の中間、江戸時代の漢方医の古く広い邸。朝な夕な読経が流れる宗教的雰囲気であった。植柳小学校で広田可六先生は文化への憧憬の種を撒いて下さり「子供の目と耳」に“ロケット”綴方を載せて頂いた。

京都一中で英数国漢地歴の他図画音楽園芸があった。図画の安江先生は筆をとって指導され、スケッチの楽しさを教えて下さった。スケッチ帳を片手に身近な題材を画いた。無心の境を体感した。三高理甲五組は寮生活。一中三高とも戦時に拘わらず、自由の空気に満ちていた。

歴史文学哲学への関心を高めた。京大では佐々木外喜雄先生・菅原菅雄先生・藤野清久先生のご薫陶を受けた。

1958年関西大学に工学部が新設され、幸運にも専任講師に採用された。京大・関西大とも自由闊達な雰囲気や幾多の学恩を受けた。

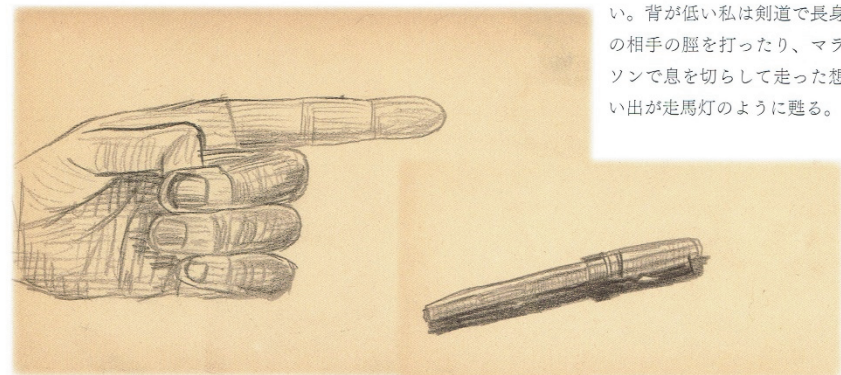
関大勤務44年間、網干善教先生のご指導を受け、海外学術調査団に度々技術史担当として加えて頂いた。

I 初期の習作

I-1 手と万年筆

京一中の2年生、安江先生の御指導で始めた最初のスケッチ。先生に、何を描いたらと訪ねると、身近な物、先ず手が良いと言われハツとした。

力が入り過ぎているが、今見ると中2の頃が懐かしい。背が低い私は剣道で長身の相手の脛を打ったり、マラソンで息を切らして走った想い出が走馬灯のように甦る。





1-2 アロエ成長す

医者いらずといわれる薬草で、古来広く用いられた。緑濃いアロエの成長は少年が青年へ成長する様を想起させる。

庭にあった鉢植えのアロエを写生した。少し写生のコツが会得できたかという感じ。青年時代の思い出のスケッチ。



4

II 巨石文明



6



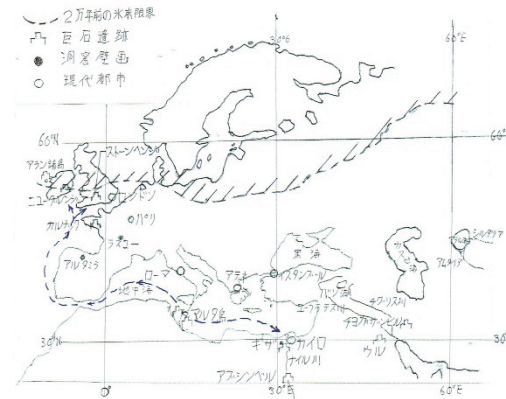
1-3 石舞台

飛鳥島の庄の石舞台古墳は飛鳥文化の象徴。石郭が露出しているが、羨道と墓室を持つ横穴式古墳。網干先生指導の再構築実験に参加した。30tの巨石も道板・ころ・修羅・網・轆轤があれば数人で運搬出来た。

5

マルタ島のHagar Qim Temple  
ハジャールキム神殿

紀元前3千年紀



欧州北西部には紀元前1万年紀のMegalithic Ruin巨石遺跡が多い。長年の実地調査より、源流が地中海のマルタ島・ゴゾ島にあることを見出した。エジプトのピラミッド・プルトーニュのカルナック列石・英国のストーンヘンジ等が突然現れる筈はない。その前に先行技術・基盤技術・それを支える社会組織がある筈。

マルタ島の古代神殿を巡り、ピーカー型土器を標識とする文化人が、巨石技術を大西洋へ、北上して仏・英に更にアイルランドに巨石文明の技術を伝えたのではないか。

7

## Carnac Alignments カルナック列石



8

パリのモンパルナス駅よりTGVで北西部Bretagneへ。巨石文明の宝庫Alignments列石やDolmen支石墓など巨石遺物が多い。

Menec列石を始め大規模な列石がある。自由に近づいて見学できる。広い緑の野に数列に整然と並ぶ大列石に驚嘆する。「いったい何だろう？」展望台から全体を眺める。

部族の首長の墓ではないか？部族ごとに巨石を建て墓とした。誰一人会わなかった。強烈な印象を受けた。

9



10

## ストーンヘンジ

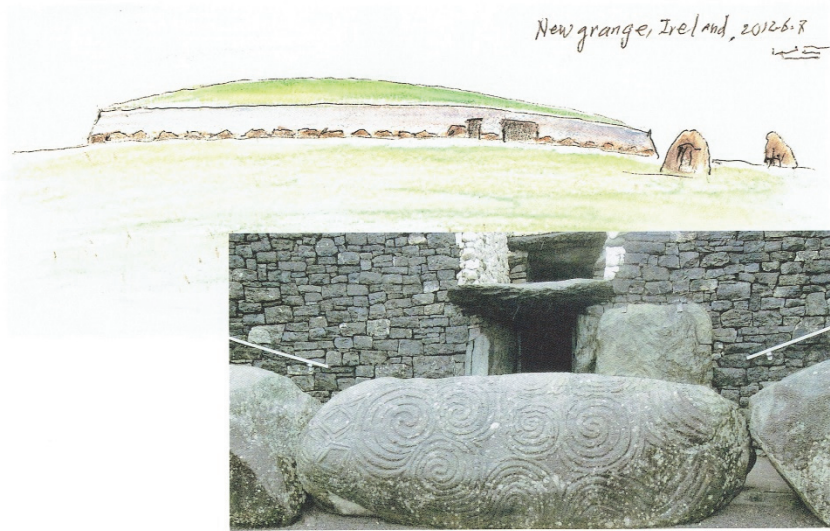
ロンドンを早朝に出発し、Bristol行きの急行に乗る。イングランド南部Salisburyの緑の野に有名なStonehengeがあった。大規模なStone circle環状列石である。外径約30mの柱状立方巨石を建て、上の楣石も一部残っている。中にU状の列石があり、東を向く。その先にheel stoneという尖った石がある。劈開面で破断し元は立方柱である。春分の朝ヒールストーン影がU状列石の中心のtable stoneに差し込む。暦を作るための天文観測の施設である。

立石の廻りより人骨が出土し墓であった。紀元前2500～2000に建てられた列石で、墓・天文観測・祭祀などに用いられた。古代人の偉業に感嘆した。

ケルト人が大陸から渡って来て、ドイルド教の祀りを行った。1987年の訪問時には自由に入れたが、現在は立ち入りが制限されている。

11





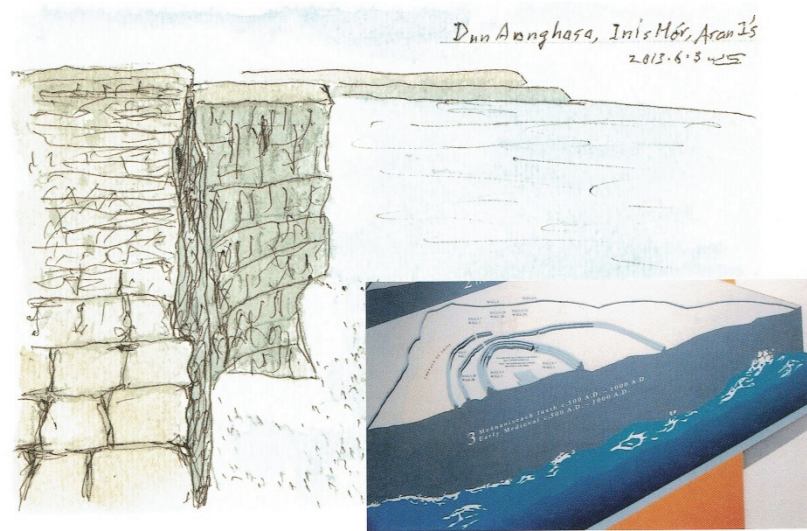
12

#### 11-4 ニューグレンジ 大円形墳墓

2013年6月アイルランドにビーカー文化人が残した巨大な円形墳墓Newgrangeを訪ねた。ダブリンの北西60km、ボイン川の流れる緑の丘陵にあった。前6000年紀の古墳がこの付近にノウス・ダウス等大小40基余りある。

羨道は巨石を積み上げ、見事な持ち送り天井である。墓室の天井は今まで一滴の雨水も入っていない。羨道入り口に渦巻き文の巨石、マルタの渦巻き文と同じ。冬至に陽光が墓室に届く。古代人の知恵と技術は感嘆の他はない。

13



14

#### 11-5 ドン エンガス 断崖上の城塞

2013年6月アイルランドの西Aran諸島の主島Inis Mor イイシモア島を訪れた。90mの断崖の上にDun Aonghusa ドン エンガスの城塞がある。3重の城壁を巡らす強固な城塞である。石造基壇で太陽を祀り、神に祈ったのか？

マルタ島に発し大西洋を北上し遂にこの巨石遺跡を残したビーカー文化人の偉業である。

軍事・政治・経済・文化の中心であった。強風に波しぶき高く舞い上がり、先人の偉業に強い感銘を受けた。

15



オスロ王宮  
オスロ王宮  
17年

16

III-1 Oslo Royal Palace オスロ王宮

1989年8月 Norway (英語、ノルウェイ語ではNorige) を訪れた。総人口400万人の王国で平和を愛する国として国際政治上で大きな役割を果たしている。早速王宮を訪れた。緑濃い大樹の影、荘重な王宮は静かなたずまい。抑えられた華麗さというか、上品な独特の美学がある。静かな北欧の朝、王宮広場を散歩。

これがバイキングの国なのか。デンマークではバイキング船に勇猛果敢な進取精神を感じた。北欧3国は土地狭隘で新天地を求めて船出した。アイスランドやグリーンランドへ植民した。南下し地中海のシチリア島とナポリにノルマン王国を築いた。パレルモには北欧式の教会がある。

古都Trontheim理工大学へ講演に招かれたこともあり、旧知が多い。北欧には学ぶべきものが多い。

17



Øresund  
North KØBENHAVN. 22 Aug. 11  
Hummelbæk

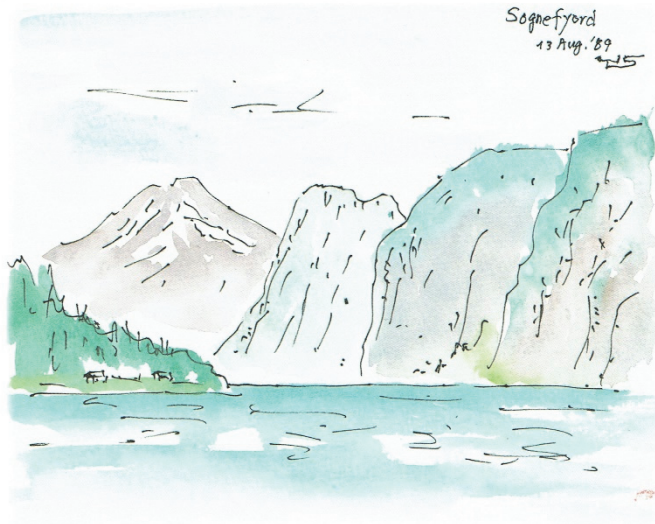
18

III-2 Ørensund オーレンズンドの海

Denmark 北方の静かな海岸。デンマークは500万人の王国。住民は元デーン人で、9～14世紀に海洋に進出したVikingの故郷である。ブラッセルの喧騒に比べ、ここオーレンズンドの海岸では爽涼の風が頬をなでる。旅の疲れを癒した。

19





Sognefjord  
13 Aug. '89  
←5

20

### III-3 ソグネフィヨルド



Kjosfossen Waterfall 93m  
Flåm, Norge

ノルウェイ南西部にあるSogne Fjordを訪ねた。氷河が作ったリアス式峡谷で、幅5～10km、長さ180kmに達する。崖が迫り、無数の滝が落ちる。次々に変わる勝景に見とれる。海・空・崖・遠山の色の素晴らしいハーモニー。

Hardangefjordenは静か。バスが峠でラッパを鳴らす。坂を下ってUlvikの宿へ着くとカルテットが素敵な演奏で迎えてくれる。早速ウエルカムドリンク。ロビーで寛ぐ。自室の窓より静かなフィヨルドが見える。小村の心温まる旅の一コマであった。

21



Tatton Park  
Knutsford, England  
7 Sept. '87  
←5

22

### III-4 Tatton Park, Knutsford England

1987年9月英国のクッツホードを訪れ、タットン公園を散策した。広く美しく良く手入れされている。人影まばらで秋風が涉って来る。広い芝生の向こうに森、紅い家が点景。長閑な閑静境である。湖水地方などイングランドの風光は日本に良く似ている。自然を生かした庭園、水と雲、愛らしい村々。大都会を離れBB (Bed and Breakfast) に泊まって一人旅を楽しむ。Barで軽食、イングランドの生活に飛び込んだ心地がした。

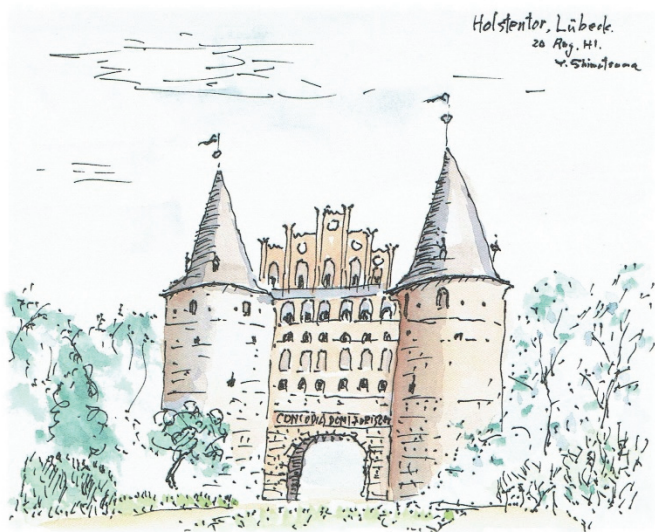
23



III-5 Ardeneアルデンヌの森のシャトー  
19世紀 ベルギー

1995年5月ベルギーを訪ねた。関西大OB伊野氏の御案内でアルデンヌの森へ。緑鮮やかな丘陵にシャトーが点在する。Namurナミュルのシャトーホテルに泊まる。バルコニーに出ると緑の森に尖塔が鮮やかである。静寂優雅な別天地。

鳥の囀り、爽風の葉ずれ。森は黙して歴史を語らず。館は貴族生活を物語る。マダムを囲んでアフタヌーンティーのサロン。客人の一期一会の貴重な一時を楽しむ。典雅なラテン文化の世界である。やがて館は暮色に包まれた。



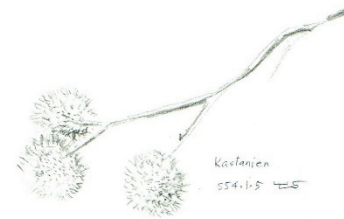
III-7 LübeckのHolstentor

1989年8月Bremen Univ.にProf.Bauckhageを訪ね、次にリュウベックへ行った。バルト海に臨むHansa同盟の商業都市である。Holstenの城門は中世の面影を良く残している。このあたりは古都の情趣が漂っている。旧東独との境界に近く、苦難の歴史を歩んだと思われる。

ハンザ同盟は「商人の仲間」の意味で13世紀より近世初期にかけて海上交通の安全・共同防衛・商権の確保を目的として北ドイツ特にバルト海と北海沿岸のドイツ諸都市が結んだ都市同盟である。リュウベックが盟主であった。16世紀以降衰えた。現在ルフトハンザ航空にその名を残している。北ドイツ商人の誇りの都市であった。

III-6 Brugesの運河めぐり

落ち付いた古都ブルージュはベルギーの近世歴史都市。運河を巡ると教会・尖塔・商家・石のアーチ橋などが次々と現れる。ブリュッセルの喧騒を避け安らぎの一日を過ごした。





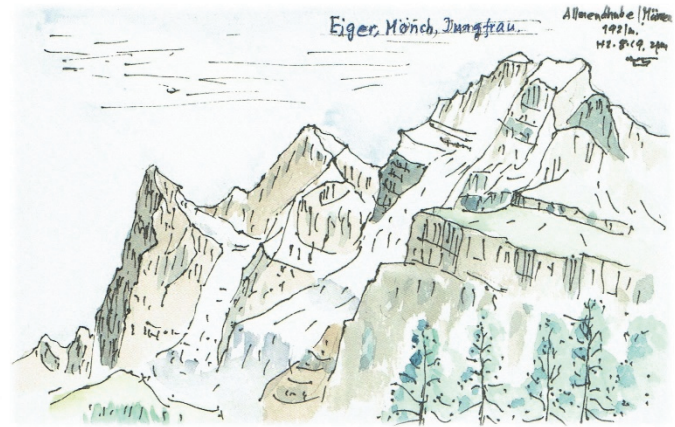


Kastanien 落  
 6 Sep. '65  
 Hofgarten, Düsseldorf

III-8 Kastanienカスタンアン落つ

ドイツの秋は早い。9月上旬Düsseldorfの公園のベンチに憩うと、カスタンアンの実が落ちて来た。もう秋、帰国の途へ。

28



Eiger, Mönch, Jungfrau  
 Allmendhube (Mürren)  
 1927a.  
 112. 8. 19, 20a

III-9 Eiger3970m・Mönch4099・Jungfrau4158

Berner Oberlandの3名峰を谷を隔てたMürrenのAllmendhubeより望む。品格のある山容は今も臉に残る。

29



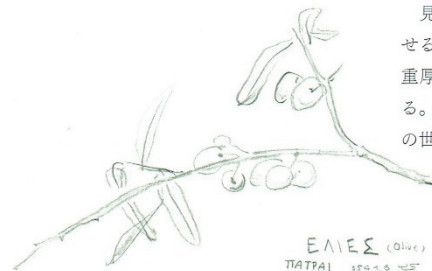
III-10 パルテノン神殿

前5世紀 キリシヤ

1964年7月スイス留学の途アテネを訪れた。

オリーブの茂みを分けて石畳みの道をアクロポリス(上市)へ登る。巨石を積み上げたパルテノン神殿は2400年の歳月を閲して厳然と立つ。

見事な均整・高い格調・たじろぎもしない落ち付き見せる。完全を具現した古典美の世界である。ドリス式の重厚な柱列。ギリシヤ古典精神の顕現として言葉に勝る。藍青のエーゲ海・白い岩山・疎らな赤松。清澄透徹の世界である。



ΕΛΙΕΣ (Olive)  
 ΠΑΤΡΙΑΙ ΣΤΑΥΡΟΣ

30

31



III-11 ミケーネのアトレウスの宝庫  
ギリシャ

1979年1月憧れのMykenai(アルゴリス)ミケーネ文明の地を訪問した。19世紀末シュリーマンの発掘により有名。紀元前16～12世紀にギリシャ本土に発達した古代文明である。

アテネの考古博物館でアガメムノンの黄金のマスクなどを見て、シュリーマンの自伝「古代への情熱」を読んで是非見たいところである。円形墓地AとB、2頭のライオンを戴く獅子門をくぐり、宝庫を訪ねた。堅固な石積みみの窮蘆が見事である。宝庫というのが本当は何であったのか？夕日の丘に立ち、考えこんだ。シュリーマンの発掘法は現代の考古学より批判されるが、トロイを発見発掘し、ミケナイやティリスなど古代ギリシャ文明を解析した功績は大きい。アテネの彼の邸宅は今も博物館として見学できる。

32

IV オリエント



34



III-12 ソフィアの雪

ブルガリアの首都Sofiaは雪。大学前広場よりNevski寺院を望む。粉雪舞う寒い日の遙かな想い出の一駒。

33

IV-1 アララット山

2006年8月秀麗のArarat山 5165mを仰いだ。

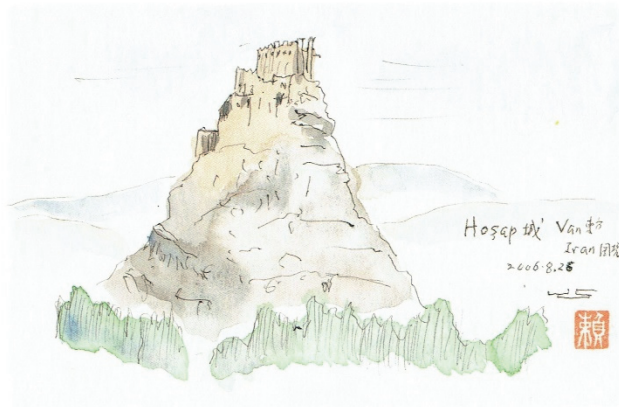
富士山に似て白雪の山容はこよなく崇高。トルコ・イラン・アルメニアの国境にあり、尊崇を集めている。トルコ名Buyuk(大きな)Agri(白い)Dagi(山)。マルコポーロや修道士オドリコが山麓を通り感慨を記している。

1829年9月パロットが登頂した。1966年深田久弥等は積雪登山を試みた。麓の緑に白雪を置く姿は気高い、暫し無心の境に浸り筆をとる。やがて夕日が染め夕闇へと消えて行った。



35





#### IV-2 Hoşap ホシャップ城

東トルコ

トルコ東部、Van 東方イランとの国境に近い。峻険な山上の城砦は興亡の歴史を物語る。ウラルトゥの高原の爽風ほほをなでる。注口付き彩文土器や透し彫り鉄器など独特の文化を残した。

36



#### IV-3 Urartu 要塞

かつて小アジア東部、ヒッタイトとアッシリアの間に栄えたウラルトゥ王国。険しい岩山上に要塞が夕日に染まって佇立していた。

37



38

#### IV-4 Yazilikaya トルコのヒッタイトの遺跡

2006年8月アンカラのアナトリア文明博物館で大村幸弘先生のご指導を受け、待望のヒッタイトの都ハットウシャ(現 ボグズキョイ)を訪問した。市壁に囲まれた丘の上の堅固な要塞。王宮などがあり、図書館より多数の粘土板文書が出土した。眺望良くライオン門や王の像が残る。ヤジリカヤ至聖所には神々の行列の像が並んでいた。

オリエントでは珍しい印欧語族で多数の楔形文字板と象形文字板を残した。独のWinklerの努力で1917年に解読された。エジプトと関係が深く、有名なカデシュの戦いの平和条約文書が出土した。馬・鉄器・チャリオットを有する優勢な民族であった。前14～13世紀小アジアを中心とした大帝國を建設したが、前12世紀海の民に圧倒された。初めて鉄を作った。

39



IV-5 **Ephesusの  
Celsus Library**

1983年8月トルコ西部、イオニア地方の古代都市エフェソスを訪れた。古代七不思議の一つ、高さ49mの柱を持つArtemis神殿や数々のローマ遺跡を見学。クレオパトラも歩いたというマールブロードは感慨ひとしおであった。最も印象深いセルシウス図書館は復元され、ファサードには立派な文字でSOΦΙΑ(知恵)と彫られていた。ギリシャ伝来の愛知の伝統が感じられる。古代人はどんな気持ちでパピルス文書に向かったのであろうか。

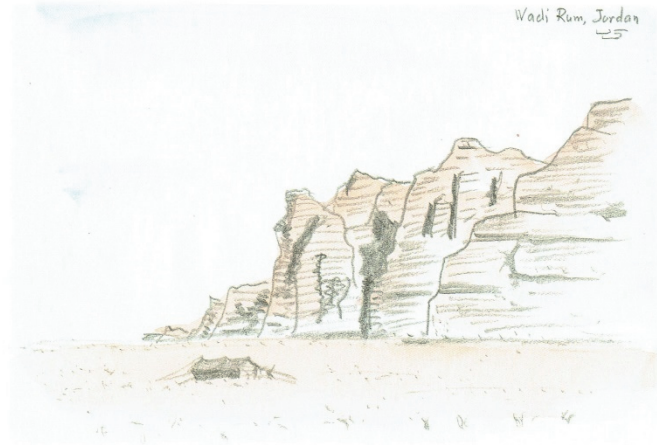
40



IV-7 **Baalbeck 神殿**

レバノン山脈の高地、バールベック3神殿のうちJupiter神殿が最も印象的。孤高の円柱烈風に立つ。

42



IV-6 **Wadi Rum(ラムの潤れ谷)**

漠地に巨岩がそそり立つ。熱砂にペトピンの黒い幕舎が唯一つ。アラビアのロレンスの紅い谷である。

44



IV-8 **Parmira**

ゼノビア女王が君臨したパルミラ。ローマとペルシャの間にあつて交易の利で栄えた。列柱より見るバル神殿は薄暮にバラ色に染まっていた。

43





44

IV-9 St. Katherina山 2637m

HOTEL  
INTER-CONTINENTAL  
Jerusalem

TEL. 282551  
TELEX 25285  
TELEFAX 285384



シナイ半島の山  
8826号 Hager 山  
2012.30 17分

シナイ半島南部に聳える聖カテリーナ山の日の出を拝する為、午前3時に麓の宿を出発。足元を懐中電灯で照らして山道を登る。急坂で気が切れる。頂上付近は冠雪し寒い。岩かげで熱いチャイを飲み待つ。東天がバラ色に染まり、日の出を迎え歓喜の聲が上がる。

下りは速い。麓の修道院に立ちよる。イスラムの地にキリスト教会、堅固な造り。修道士の遺骨累々。イコンは有名。

帰途大型サーキア群に出会った。やはり水が重要であった。

45



46

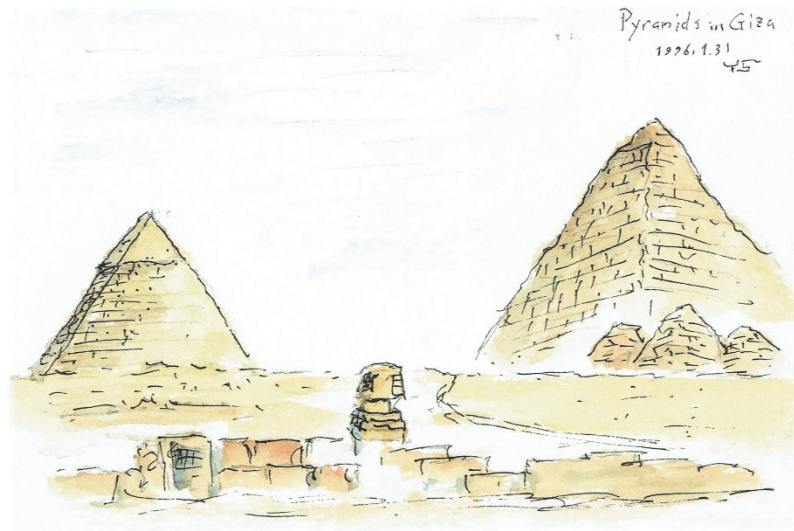
IV-10 コーカサスの北の入り口  
オルジョニキーゼ



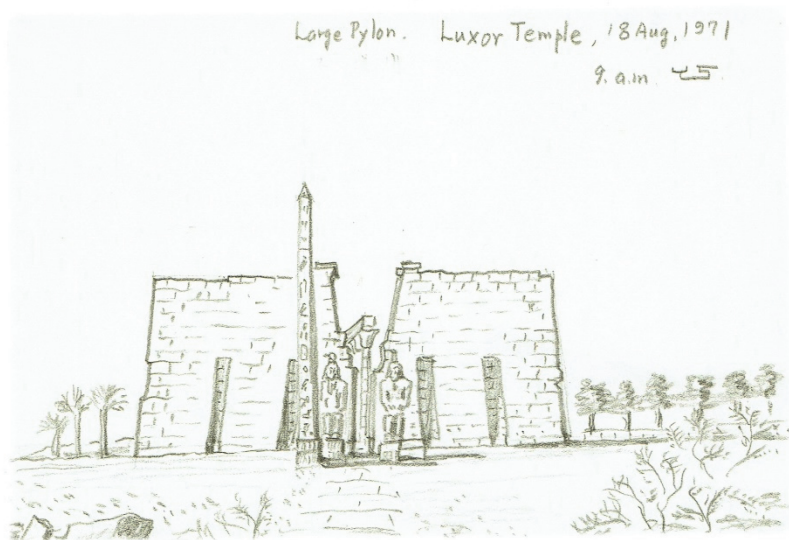
1978年8月コーカサス縦断の旅に上った。オルジョニキーゼからグルジアを通りアルメニアの都エフワンへ至る。コーカサスは黒海とカスピ海に挟まれた山岳地帯。東西に幾つもの山脈が走る。その谷合に古代オリエントや西南アジアで活躍した民族の後裔がひっそりと住む。アッシリアの末裔と称する人達もいた。

峠を越えると墓制が変わる。墓を調べると先祖が分るのではないか。民族と文化の坩堝コーカサスは歴史の宝庫。少女の寂しい瞳に悠久の歴史を思った。

47



48

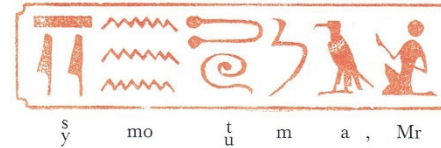


50

#### IV-11 ギザの3大ピラミッド

1964年以来何度訪れたことか。今回はGizaで宿泊、終日窓からピラミッドが見えた。朝日に浮き上がる頂き、夕日にピンクに染まる姿、みな趣がある。

3大ピラミッドや葬祭殿、河岸神殿そしてスフィンクスなどを訪ねた。近来発見された天空の船の保存庫も見学した。この巨大で精密な建造物の前に先行技術・基盤技術そしてこれ等を支えた社会組織があったと確信した。



筆者刻ヒエログリフ(古代エジプト聖刻文字)で氏名印を作りました。余技・遊び心……

49

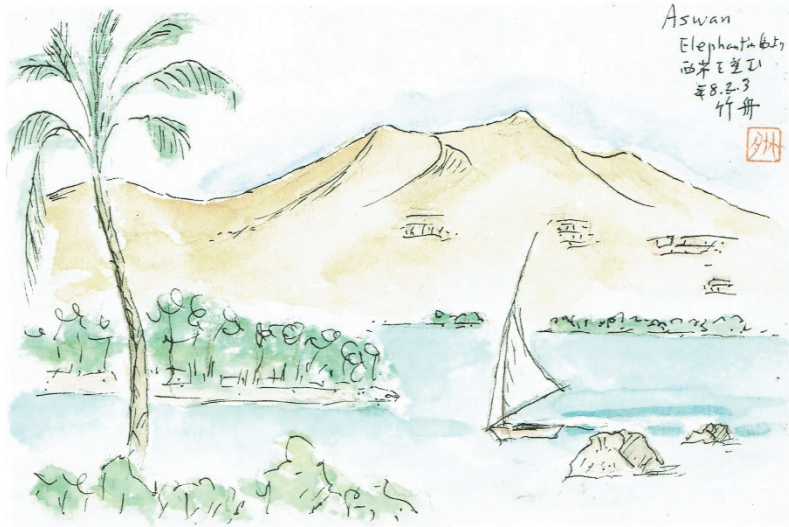
#### IV-12 ルクソール神殿

古代エジプト新王国時代の都Thebesテーベ(現Luxor)のルクソール神殿のラムセスII(1299～1232BC)のLarge Pylon(大塔門)の前に立った。高さ25m、幅65m。ヒッタイトとのKadishの戦いが刻まれている。天を摩して立つObelisque(方尖碑)は高さ25m、約200t。僅か3m平方の石台の上に立つ。対の一つはパリのコンコルド広場に立つ。古代エジプト最盛期の威容を今に伝える。

この前にスフィンクス道路があった。見事な遺跡に感嘆の他はない。

51





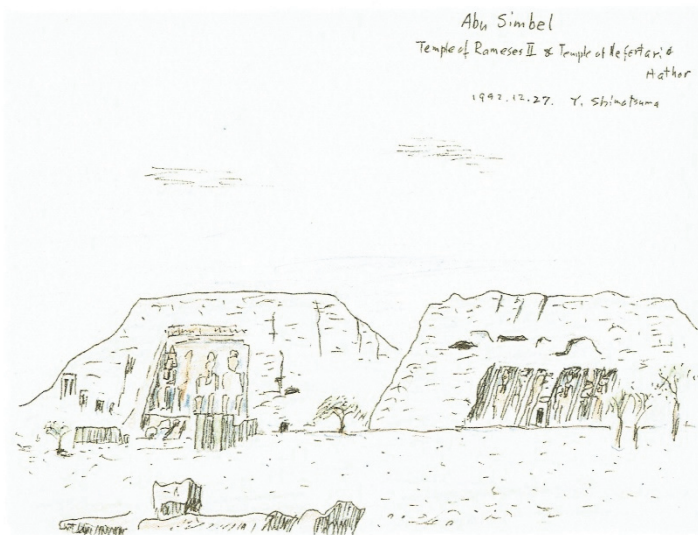
52

IV-13 Aswan, Nile

ナイル河上流のアスワンはハイダムとナセル湖で著名である。Elephantine島に渡り西岸を望む。三角帆を張るファルーカが静かに滑って行く。黄褐色の砂漠にナイル河畔のみに緑がある。エジプトはナイルの恵みの賜物である。

エレファンティン島で水位を測る古代ナイロメーターを見学し、ファルーカで周航した。川面の爽涼の風、波しぶき。新王国の昔に返った気分を満喫した。

53



54

IV-14 Abu Simbel 神殿

Aswanで堰堤を築きナセル湖を作ると、神殿は湖底に沈む。

UNESCOの援助で各国が協力し、神殿を角型に切断し東岸へ持ちあげ再建された。左はRamesesIIの神殿、右は妃Nefertariの神殿である。ラムセス神殿に入ると右手に大きな壁画、チャリオットに乗るラムセスIIの雄姿。カデッシュの戦いの一勅である。古代エジプト最盛期の至宝である。全景を見渡す石に腰かけ3千年の往時を偲んだ。

55



56

## V アフリカ



58

## IV-15 ツータンカーメン少年王の記念切手

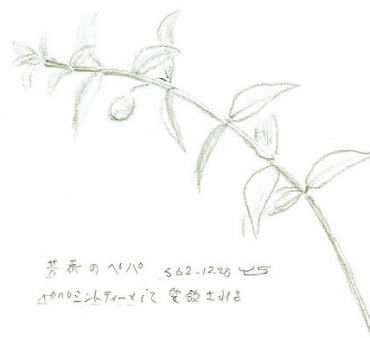
ロゼッタストーンの解読より古代エジプトへの関心が高まり、多くの墓が盗掘された。唯一盗掘を免れたTutankh-Amen少年王の墓はカーナボンの後援によりカーターにより発掘された。前14世紀エジプト第18王朝の王。玄室には黄金のマスクをつけた王のミイラが眠っていた。前室には夥しい財宝が詰め込まれていた。6台のチャリオット、王と王妃の睦まじい様を描いた椅子等新王国の工芸の精華はカイロのエジプト博を飾っている。

57

## V-1 Safax市壁

Tunisia

1994年末北アフリカへ。チュニジア地中海沿岸、砂漠そしてアトラス山地よりなる。サファクスは市壁に囲まれた中世都市。彩色残る市壁に中世の色が濃い。市壁のデザインは斬新でローカルカラー豊かである。頑丈な城門をくぐり入城。そこには中世の静かな迷路のような街があった。外装は質素であるが、一步入ると噴水のあるパティオを囲み人々が談笑の時を過ごしている。これが北アフリカの本来の姿と思った。



59



Chebika, Tunisia  
'94.12.31. 9a.m.  
25



60

## v-2 Chebika Tunisia

南へ進み砂漠地帯へ入ると、景色は一変する。褐色の大地にアトラス山脈が迫る。麓の僅かな緑が眼にしみる。陽光まぶしく、風も熱気を帯びてくる。アトラス山地へ踏みこむと、太古の生活があった。山村では古代ギリシャのHeronが書き記したbeam pressでオリーブ油を絞っている。2千年前と全く同じやり方である。ここは古代技術の宝庫であった。

61

Marrakech の城壁  
Atlas 8 Aug. '71 7:20am  
25



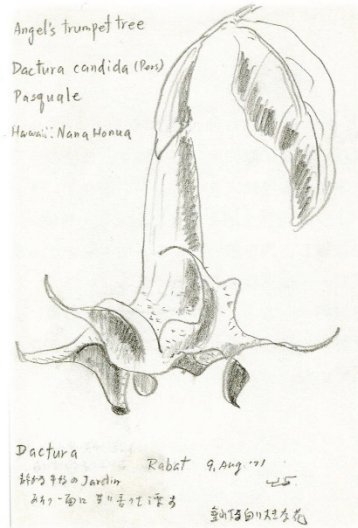
62

## v-3 Marrakechの市壁 Magrev(Morocco)

1971年盛夏モロッコの古都マラケッシュの城外に立った。煉瓦積みの市壁は完全な形で残り、往時の姿を留めている。場外の広場は人々が行きかい賑やか。サハラ砂漠からアトラス山脈を越えて来た旅芸人・蛇使い・様々な奇習を披露し、銭を稼いでいる。地中海とサハラの文化が混在し、一種異様な雰囲気である。

喧騒を抜け城内へ入ると、狭い迷路が網の目の様に広がっている。静かな日陰に少女の姿。城内では昔と変わらぬ時が流れていた。

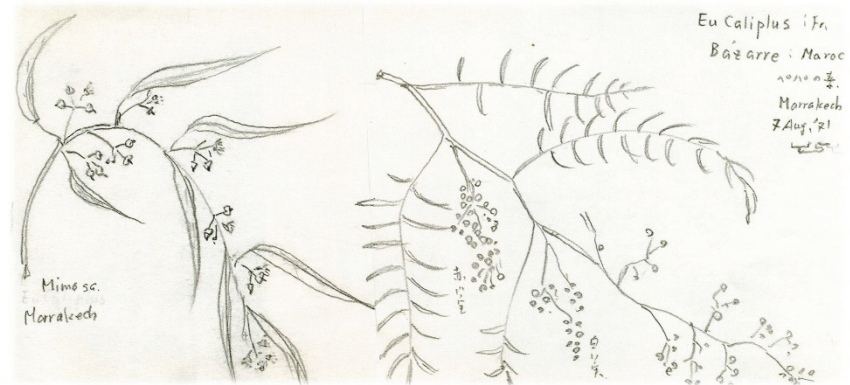
63



64

v-4 Angel's Trumpet Rabat Morocco

静かな午後のJardin、甘い香りの大きな白い花が垂れさがっている。マグレブではDaturaという。天使のトランペットとは良く云ったものだ。妖艶な白い花は人を魅了する。静かな午後の夢幻の世界であった。



v-5 MimosaとEu Caliphus Marrakesh Morocco

マラケッシュは北アフリカで古風を良く残す。午後のパチオでミントティを頂き、静かな時を過ごす。

65



v-6 Tunis 風光

Tunisia  
 チュニジアの首都チュニスには地中海に面した南欧風の都市。建物の色彩はすべてパステルカラーの間色、軟らかい感じがする、フランスのコートダジュールと変わらぬ。ここに根づいた南欧文化の生命力を思った。

66



v-7 ローマ時代の水道橋

Tunisia  
 アトラス山脈の水源からTunisまで延々と水を引く壮大なローマの水道橋に驚嘆した。雄大な構想、僅かな勾配を維持する技術力、これを成し遂げたローマ人の気力は感嘆の他はない。

67





v-8 Alexander 神殿

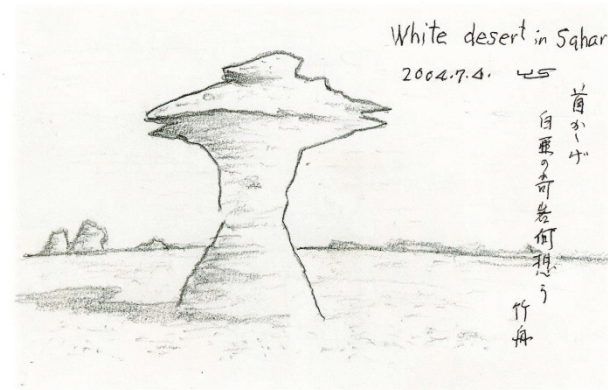
Siwa Oasis Egypt

アレキサンダー東征の時、先ずエジプトへ来てシーワオアシスで東征を占なった。神託を頂いて東征へ出発した。神託神殿は半壊。昔を知る由もないが歴史の一コマを見た。

68



70



v-9 White desert in Sahara Egypt

エジプト西部、地中海に面するMatrahで準備を整え南下。

シーワオアシスを経て、白砂漠に出た。真っ白の白亜の砂漠、風化による奇岩に一驚。ここでテントを張り、満天の星を仰いでの砂漠夜泊、忘れ得ぬ思い出。

69

v-10 Victoria Falls

アフリカ南部

2013年秋、アフリカ南部5カ国を周遊した。割目すべきはビクトリア滝であった。Zambezi川上流、ZambiaとBotswanaの国境にある。幅1,700m、高さ75m(高さは場所・乾期と雨期で異なり、76～105m)、大瀑布は水煙濛々、風が来ると頭よりザーと水流が降る。英国のLiving Stoneが発見した大瀑布は誠にすごい。時に虹が立ち、滝音は遠くまで聞こえる。壮絶な瀧であった。

71

VI シルクロード



72



74

VI-1 エルブルース山脈 テヘランより

イラン

1989年冬Teheranより北方のAlburz Mt'sを望んだ。雪に覆われた峻々たる山容は威厳に満ちている。東北の最高峰Demavend山5671mの雄姿は誇らしげである。山並みのむこうはカスピ海。



松 Euphrates畔 Deir-ee Zor Syria

73

VI-2 ザヤンドルド川 イスハハン

イラン

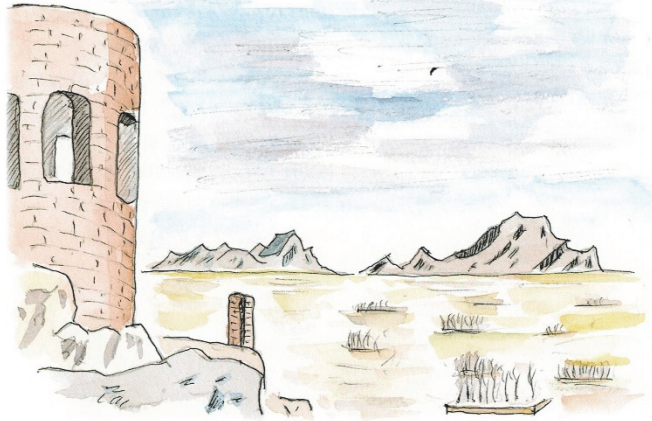
古都Isfahanはササン朝ペルシャの栄光を今に伝える。Zayandeh Rud川はZagros山脈に発し、土漠に忽然と現れ、イスハハンの都を潤し、再び大地に吸い込まれる不思議な大河である。

一日小閑を得、Khaju橋畔より風光を楽しんだ。イスハハンは大河の両側に展開する。特徴のある多くの橋が架かる。ある橋は二階建て、道路橋の下はお店や潇洒なカフェがある。チャイを頂き、窓外の風光を愛でる珠玉の一時を楽しんだ。

75

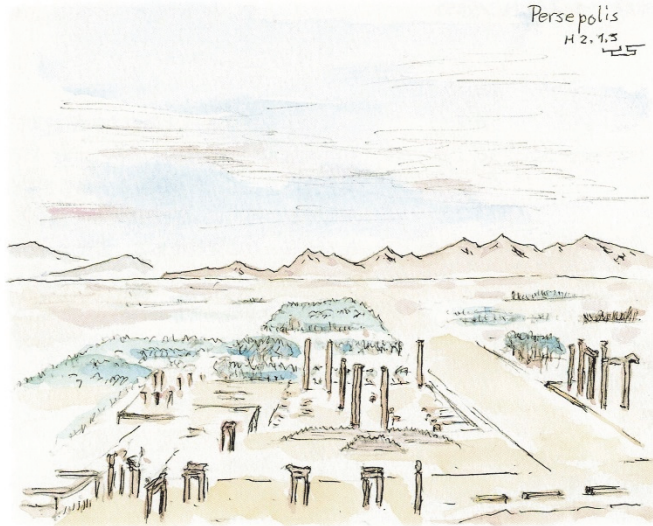


Esfahan西部の拝火神殿  
 秋2年1454 1代身堂



76

Persepolis  
 H.2.1.3  
 25



78

VI-3 拝火神殿 イスハハン郊外  
 イラン

丘の上の拝火神殿を訪れた。旧制第三高等学校で Nietzsche の「Also sprach Zarathustra」を習ったことを思い出した。ニーチェは実存主義哲学の先駆者で、自律的徳徳の超人 *Übermensch* をして語らしめた。前6世紀 Zoroaster 教の開祖である。古代ペルシャの国教として栄えた。沈黙の塔など不気味である。パルチアの古都 Nissa に立派な拝火神殿跡が残る。今も Yazd では永遠の火が燃え、信徒が敬虔な祈りを捧げている。信徒はインドなど方々に散在している。

77

VI-4 アケメネスペルシャの宮殿  
 前4世紀 イラン



1990年1月広漠たる台地に眠る気宇壮大な宮殿遺跡を訪ねた。前6世紀キュロス大王に始まり、前4世紀アレキサンドロス大王に滅ぼされるまでの栄光の史跡。ダレイオス I 世の時最盛期を迎えた。万国の門より入り、アパダナ(大基壇)上の謁見の間に入る。石柱の柱頭を牡牛像や怪鳥グリフィンが飾る。古代ペルシャの隆盛の栄光を偲んだ。

79



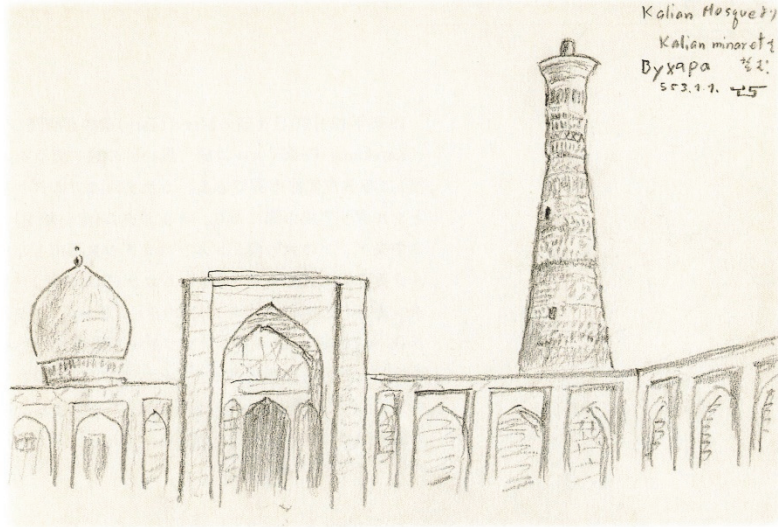
メルクのMerv  
Turkmen  
561.12.30.18am  
45

80

VI-5 **メルブ**  
トルクメニスタン

1986年12月30日待望のMerv(Mary)遺跡を訪問した。  
Karakumy Peski(トルコ語 黒い砂の意 カラクム砂漠)にある古代都市群である。カラクムはアムダリア川とシルダリア川の間であり、キジルクム(赤い砂漠)と並ぶ中央アジアの大砂漠。メルブはオアシス都市としてエルカラ(BC10世紀)、ギャウルカラ(BC3世紀)、スルタンカラ(12世紀)、大キズカラ(6~7世紀)、小キズカラ(6~7世紀)、スルタンサンジャール廟(12世紀)などを巡った。最も印象に残ったのは大キズカラ(娘たちの城)で、外壁に高さ15mの24本の飾り塔がある。丘の上の孤高の姿は無言で歴史を物語る。

81



Kalian Mosque  
Kalian minaret  
Buxara 塔  
502.17.45

82

VI-6 **ブハラのカリヤンミナレット**  
ウズベキスタン

高さ46.5m、土台は10m角、二重螺旋階段105段が付いている。装飾煉瓦を積み上げ12~13層になる。古来漠地の旅人に灯台の役を果たした。重厚な安定感がある。青空に佇立している。手前にカリヤンモスク、広い中庭。そしてミリアラブメドレッセ(回教学校)、今も数十人が学んでいる。

83





84



86

VI-7 イスマイル サマニー廟  
 ウズベキスタン



85

漠地にポツンと小廟が立つ。愛らしくこの上なく美しい。イスラム建築の粋である。14世紀のメチティである。大樹の陰にひっそりと朝日を浴びて誠に秀麗である。サマルカンドの最後の朝を楽しんだ。

サマルカンドは広大なチムール帝国の首都。中央アジアにトルコ文化の最期の華を咲かせた。レジスタン広場を囲む三つのモスク・ミナレット・メドレッセはチムールの栄光を今に伝える。女子学生に日本語で挨拶され驚いた。

VI-8 Bamiyanバーミアンの大石仏  
 アフガニスタン

1976年12月長年期待のバーミアン大仏に詣でた。カブールよりセスナ機で西へ30分。褐色のヒンズークシュ山中に小盆地が現われた。空港とは名ばかり、石ころを除いた漠地にブルーと着地した。吹き流しが1本のみ。

東西の大仏は目前。数珠を手に仏前に詣でる。西大仏は高さ53m、東大仏は高さ35m御顔は削り取られていた。東大仏の左側の螺旋階段を登り御顔の横に出た。天井に彩色の壁画、チャリオットに乗った天使の図、ヘレニズム文化の名残である。

ここを訪れた玄奘は金色燦然たりと大唐西遊記に記した。石窟寺院群に多くの龕があり通路で結ばれている。其の一つに入り、往時を思う。ヒンズークシ山岳は厳しく蒙古遠征の後、その後裔がハザラ族として住む。

両大仏が破壊されたのは誠に残念である。

87



88

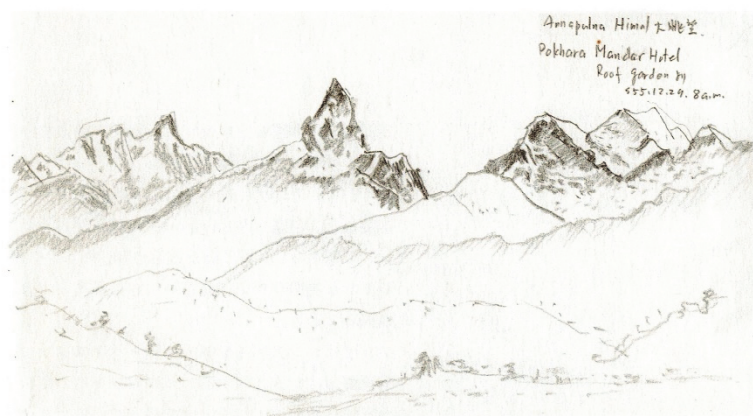
## VI-9 ラカポシの黎明

ネパール

1992年8月中国のタクラマカン砂漠を越えて中巴公路に入り、4934mのKhunjerab Passクンジュラープ(赤い谷)峠を越えフンザに投宿した。高山病にかりFunzaで休養した。自室よりRakaposhi 7788mが良く見える。ピンクの朝やけ、夕日に染まる雪の峰、移り行く雲の影、いつまでも見飽きない。厳しい山容は気高い。カラコルムの秀峰である。

フンザはロシア・インド・中国・パキスタンに囲まれた桃源郷、インダス河上流のギルギット川の扇状地にある小王国。八方美人外交で国を保っている。村の水車小屋で堅軸製粉水車を精査出来た。貴重な学術資料である。フンザのアンズは実に甘く、四方のカラコルムの峰を仰ぎながら紅茶を楽しんだ。

89

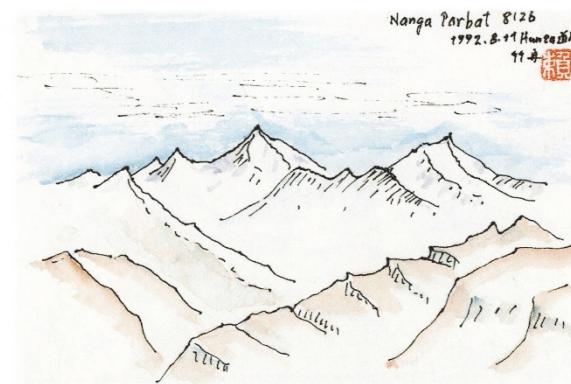


## VI-10 アンナプルナの大眺望

ネパール

ボカラから眺めるAnnapulunaのパノラマは素晴らしい。ヒマラヤ襞を纏うI、II、III峰は眼前にある。白雪の峰々、裾の灌木の緑、ペワ湖の紺青のハーモニー、白雲一片いずこへ。

90



## VI-11 Nanga Parbat 8126m

パキスタン

フンザからボキスタン北部のガンダーラの仏跡へインダス河に沿って下る。ギルギットの手前開けた展望台より、独立峰ナガパルバットを望んだ。カラコルム山中の高峰で、真っ白の雄姿が天に聳える。何か近寄りたがたい威厳を感じさせる高峰であった。

91





92

## VI-12 But Kara 仏跡

パキスタン

泥池に純白の蓮の花一輪。現世に降り立った釈尊の姿と拝見した。パキスタン北部ガンダーラにはギリシャ都市遺跡や仏跡が多い。緑濃いスワット渓谷の奥サイドシャリフにはブトカラ仏跡がある。大ストゥーパは崩れ、それを囲む多くの奉獻小塔も崩れているが、森厳な仏教的雰囲気が濃い。

珍しく英文の詳しい説明板があった。スワット渓谷は西南アジア乾燥地には珍しく緑が濃く溪流が豊かである。かつてここを訪れたアレキサンダーはこの風光を喜び、3ヶ月逗留して鋭気を養ったという。私も仏前で読経した。

93



94

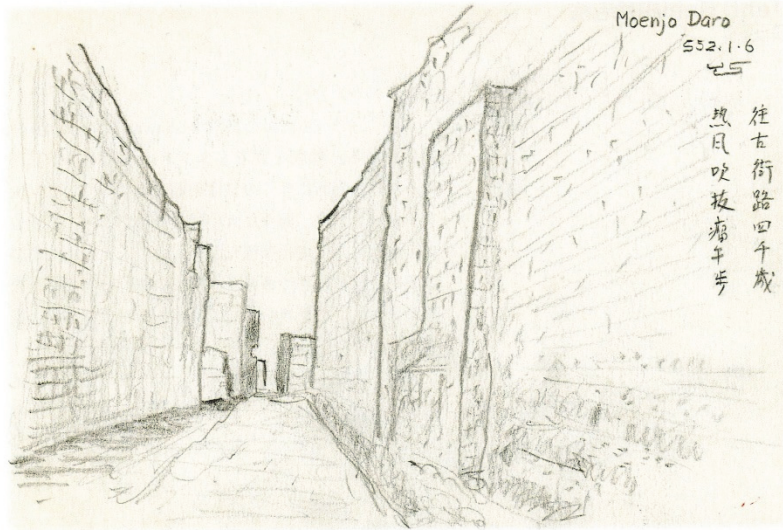
## VI-13 Tahti Bahi 山岳寺院

パキスタン

パキスタン西北部の要衝Peshawarの北へ、山岳地帯にかかる。急坂を登るとタフティバイ山岳寺院跡があった。急斜面に多くの堂塔伽藍が点在している。大ストゥーパと僧院、周りに大小様々な僧坊がある。主要部は京大隊によって発掘復元されている。比叡山や高野山の山岳寺院の原型であろう。厳しい修行の場であったと思われる。更に急坂を登って、全景を目に収めた。遙か広漠たる平野を望む。

孤高の寺院、今寂として人影なし。厳しい修行生活を思う。合掌

95



96

VI-14 **モヘンジョダロ**  
パキスタン

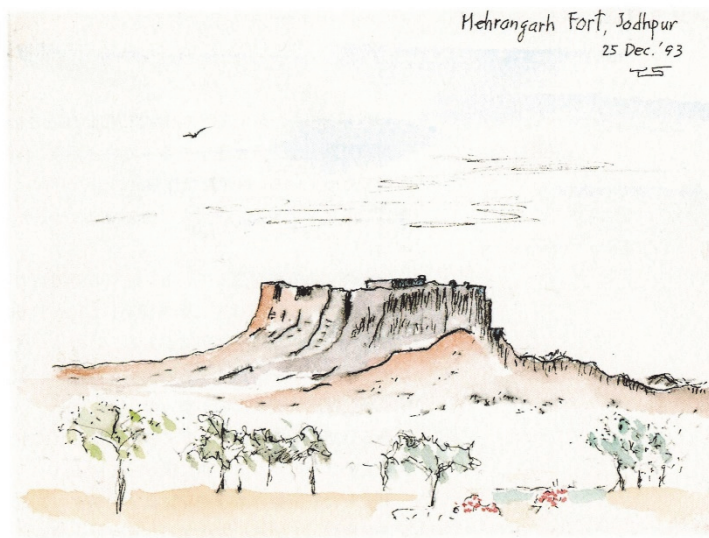
1977年1月インダス文明の遺跡Moenjo Daroを訪ねた。街路整然と、上下水道まで整っている。深い沐浴地は完形で残っている。焼煉瓦で作られ、階段が付いている。瀝青で漏水を止めた。古代人はここで水につかり身を清めた。

一段高く仏塔跡が残っている。近くの博物館で様々の出土品を見た。印章は特に興味深い。1.1cm平方の印面には瘤牛や一角獣の上に刻文がある。このインダス文字は未解読で、シャンポリオンの出現を待っている。又分銅も興味深い。度量衡制が整っていた。

ある日南下して来たアリア族に圧倒されたが、インダス文明は今のインド文明に繋がっている。

出土した紅玉髓のネックレスはメソポタミア文明との交流を物語っている。古代文明はロマンに満ちている。

97



98

VI-15 **Mehrangarh Fort, Jodhpur India**

1993年12月インド訪問。北の大都ジョウドプール郊外にメハランガール要塞がある。丘の上の近世の堅固な都城で、藩王の宮殿を中心に発達した。城壁に囲まれ大砲を備える。

街を遠望するとコバルト色の美しい街並み。悠々たる生活が見られる。

99





VI-16 **タシケントのキロンティ塔**  
ウズベキスタン

1978年に訪れたタシケントはウズベキスタンの首都だけあって整備された文化都市。ナボイ公衆図書館はギリシャ風の玄関で蔵書400万冊、中央アジア諸民族の貴重な宝。ナボイ劇場・デパート等が並ぶ。ナボイ劇場はシベリア抑留の日本人が作った白大理石の立派な劇場、正面左脇に日本文の碑がたち、先人の苦勞が刻まれている。メトロの各駅は諸民族の伝統文化のモザイクで飾られていた。タシケント塔は芸術性が高く、風格のある高い塔で感銘を受けた。

100

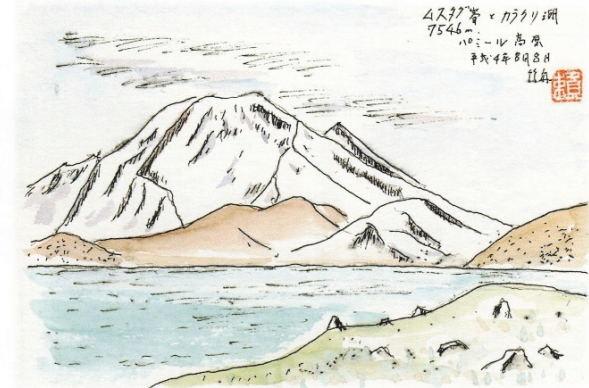
**VII 中 国**



VII-1 **エイティガール回教寺院**  
カシュガル 中国新疆

カシュガルはシルクロード天山南路の北道の西の要衝。新疆はトルコ系のウイグル族の地。立派な回教寺院がある。ミナレットを持つ広大な寺院はイスラム文化一色。絨毯を敷き詰めた大ホールでウイグル族が頭をすりつけて祈る。宗教の不思議な雰囲気。包容力を感じた。前の広場は緑濃く紅の花が色を添える。立派な時計塔は回教文化の象徴。職人街も近く、活気に満ちている。かつて大谷探検隊が仏教伝来の道を調査した故地である。

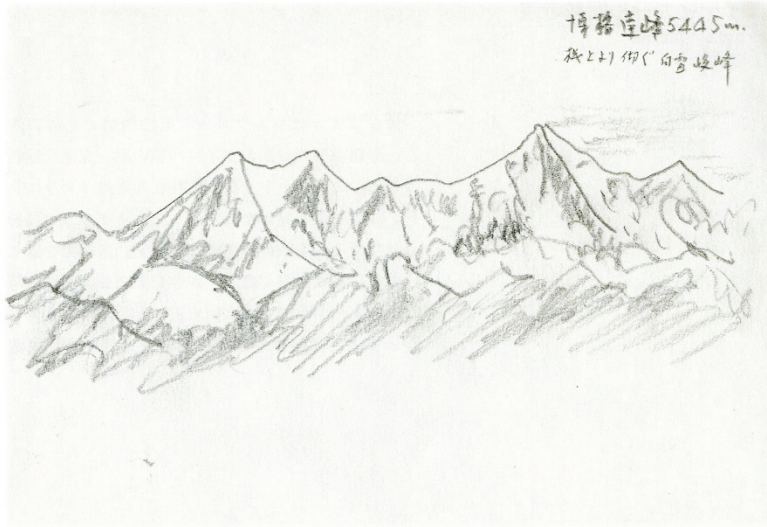
102



VI-17 **ムスタグ峰とカラクリ湖**  
中国

1992年新疆からパキスタンへの途上、パミール高原の麗峰ムスタグ峰7546mを仰ぎ、麗のカラクリ湖を通った。中国最西端、タジク族が羊の放牧に登って来ていた。白雪の峰は去来する雲に見え隠れし、寒冷の風が吹く。さすがにパミール高原である。馬を借りて湖を一周する。世界の屋根パミール高原の印象であった。

101



104



106

VII-2 ボコタ峰 博格達峰

天山山脈は北の草原と、南のタクラマカン砂漠を分ける地政学上重要な山脈。6995mのハンテングリ山を最高峰とし、東西約1000kmに及ぶ雪山である。ウルムチ空港近く、機窓よりボコタ峰5445mの山容が見えた。白雪を載せる厳しい山並みである。

ウルムチ滞在中朝な夕な霊峰を望んだ。

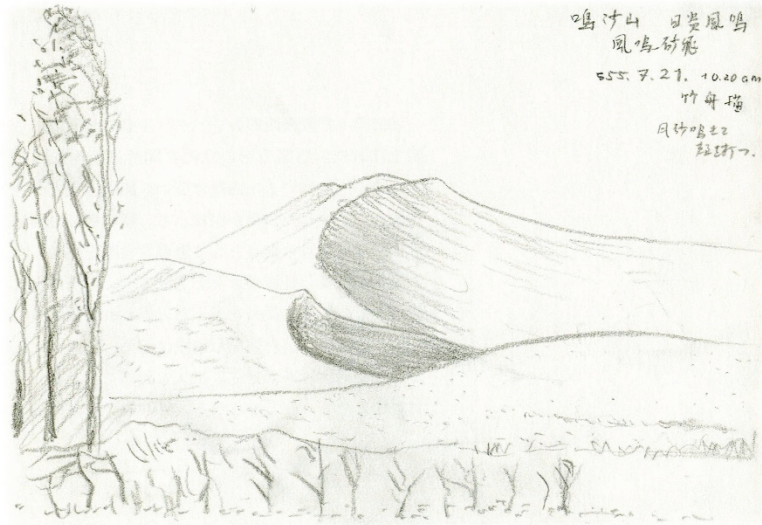
105

VII-3 玉門関

1995年8月敦煌西郊のシルクロードの関門である玉門関を訪れた。版築方形の立派な関所は漢地に健在である。狭い門をはいると内庭は広い。関所の役人が行人を改め、徴税した情景が偲ばれる。漢の武帝の西域進出以来、西域経営の拠点として重要な役割を果たした。西の陽関へ版築の長城が延々と延びて行く。隣に烽火台が建つ。その近くに兵舎を支えたとされる版築の柱が建つ、ここに漢の兵が駐屯し匈奴に備えた。近くに疏勒川があり、河倉城跡がある。広大な城塞で、兵員・武器・食料等を準備したとみられる。兵ものどもの夢の跡。

107





108



110

#### VII-4 鳴沙山

敦煌郊外の大砂丘。砂は烈風に飛ばされて刻々姿を変える。西風に吹き飛ばされるが、不思議と又新しい砂丘が出来る。東西に延々と延びる砂丘の山脈である。靴を脱いでがむしゃらに稜線に達した。下りは一気に滑り降りる。風鳴き砂飛ぶ不思議な砂丘である。現在は観光地となり、駱駝で一周出来る。

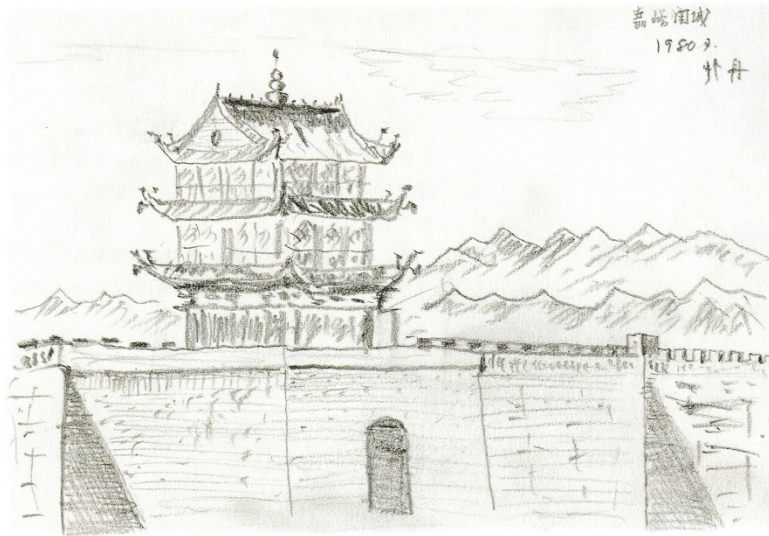
109

#### VII-5 月牙泉

鳴沙山中の泉。1980年7月に訪れた時、土屋が建ち、胡楊が茂っていた。湖畔には葦が茂り、小魚が泳ぐ別世界であった。最近では観光地となり、新寺院が建ち、昔の面影は全くない。

漢代には湖畔で市が開かれ、漠地の民が集まり賑やかであったという。このスケッチに昔日を偲ぶのみである。

111



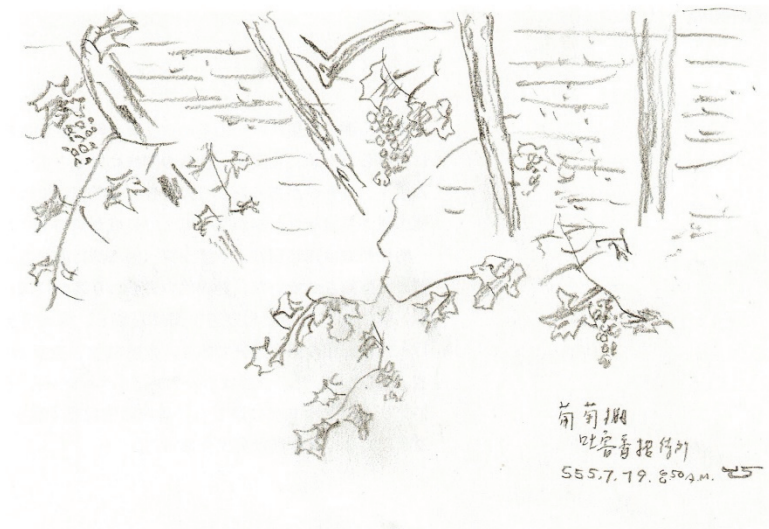
112

VII-6 嘉峪関城

祁連山脈と馬鬃<sup>バシニア</sup>(たてがみ)山系に挟まれた河西回廊に明代に設けられた頑丈な関城。初秋の関城に入ると広い中庭にボツンと井戸があった。石段を登って関城に立つと祁連山脈が見渡せる。遙か第一屯まで長城が延びている。

明代長城は嘉峪関城より遙か東へ渤海湾に面する山海関まで整備されていた。秦漢代の長城より遙かに南である。明代この長城で北方遊牧民に対峙し、南海遠征を行った。鄭和の南海遠征である。大船62隻、乗員27000名、5回出港した。一部はホルムズ国(ペルシャ)、更にアフリカのソマリアに達した。南海諸国は悉く服従し、通商に応じ、その利は莫大であった。

113



114

VII-7 葡萄棚 トルファン

吐魯番 新疆

天山北路と南路が合する要衝。海拔-154mの低地でとにかく暑い。天山よりのカレーズに潤されるオアシス都市。漢代より屯田が行われた。5～7世紀その移民により高昌国が栄えた。7世紀インドへ向かう玄奘が訪れ歓迎されたが、帰途訪れると、この国は滅びていた。栄枯盛衰を感じた。1980年7月に訪れた。葡萄棚の下で憩い、夕べにはウイグルの踊りを見て、異郷に来た感慨一入であった。

115





116

## VII-8 雲崗石窟

1982年7月大同の西の雲崗を訪れた。莫高窟・竜門石窟と共に中国3大石窟として著名である。清流に臨む岸壁に50余りの石窟があり、貴重な仏跡である。北魏時代460年より約70年間にわたり造営された。初期の交脚像から三尊仏に至る過程が興味深い。

向かいは大同炭坑、炭塵舞う酷い状況であったが、最近日本のODAにより石炭車専用鉄道が建設され、改善された。

石窟も観光地と化し、敬虔な仏教徒が祈りを捧げる往時の姿はもう見られない。

117



118

## VII-9 三江水車

華南山地、侗族の住地三江には竹製の揚水水車が多い。山地の為、耕地に水を汲み上げねばならない。器用な侗族は水流の勢いで水車を回し、周りに取り付けた器で水を汲み上げる巧妙な機械を発明した。西アジアでは縦軸水車、東の華南では横軸揚水水車が発明されたと考えられる。

三江水車は大小様々であるが、竹の弾力をうまく利用している。釘一本も用いず、心軸に木材を用いるのみですべて竹製である。多くの水車が終日回る様は長閑な田園風景である。

日本の九州には朝倉三連水車が今も健在である。

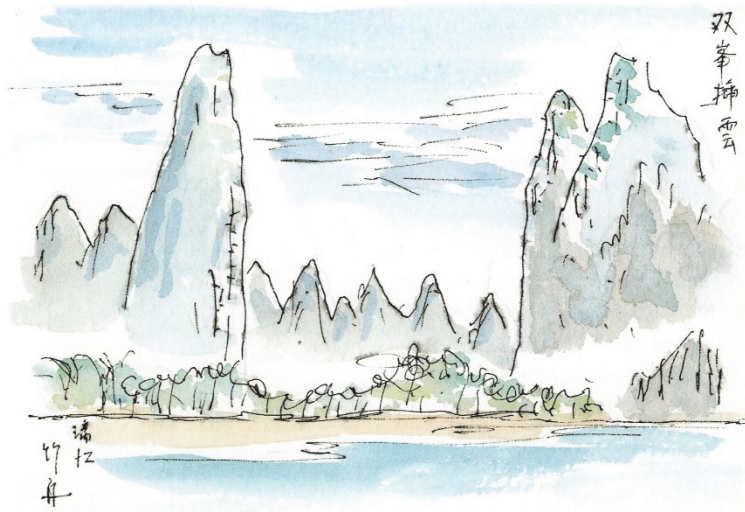
侗族は揚水水車・屋根のある風雨橋・鼓楼を三点セットとして村を作る。その器用さは驚くばかりである。

## VII-10 小雁塔

1980年7月古都西安を訪れた。玄奘ゆかりの大雁塔も良いが、義浄(635～713)ゆかりの小雁塔も引きつけられる。上部が欠けているが、塔姿麗しく、折から飛燕が天空をよぎり、塔影は石畳に長し、と日記に記した。唐僧法顯・玄奘を慕って南海路でインドに渡り、695年仏典400余巻を持って洛陽に帰った。ここ小雁塔に籠って漢訳した。四大訳経家の一人である。「大唐西域求法高僧伝」は当時のインドの最高資料である。静かな夕方の寺域を巡り、義浄の偉業を偲んだ。



119



120

VII-11 双峰挿雲

漓江

1994年11月漓江の勝景に遊んだ。竹堤より乗船して、陽朔に下る。石灰岩は水蝕して奇岩林立の勝景をなす。中でも冠岩幽境は秀逸であった。おりしも白雲一片二峯に挿した簪の如く珍しい風光であった。

竹林・鶉・竹筏・・・華南の風光誠に掬すべきものがある。一卷の夢物語を見る思いであった。



柳宗元



杜甫



韓愈



李白

121



122

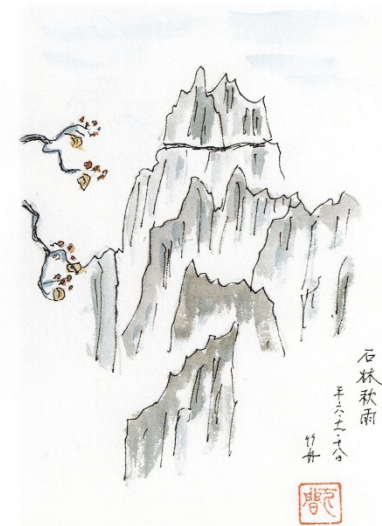
VII-12 雅趣

漓江

風景は幻の如く移り行く。時に厳しく、時に優しく茫洋として雅趣豊かである。

VII-13 石林秋雨

昆明東方の石林は石灰岩を侵食した、奇岩針峯が多い。少数民族イ族の地で、色鮮やかな民族衣装の娘たちが往来する。秋雨一過、情趣一際濃し。



123





124

VII-14 金山嶺長城

2009年8月、北京より北へ。懐柔・密雲を過ぎると燕山山脈が迫る。金山是北京と承德の中間。春秋戦国時代諸国は国境に長城を築いた。齊が最初で、楚・趙・魏・越等が築いた。前22年秦の始皇帝が天下を統一し、秦・趙・燕の長城を連ね北の匈奴に備えた。西は秦の臨洮から東は遼陽に至る。急坂を登り長城を実感した。

漢の武帝は西へ伸ばし玉門関から楼蘭へ。気宇壮大、朔風来たり秋を感じた。

125



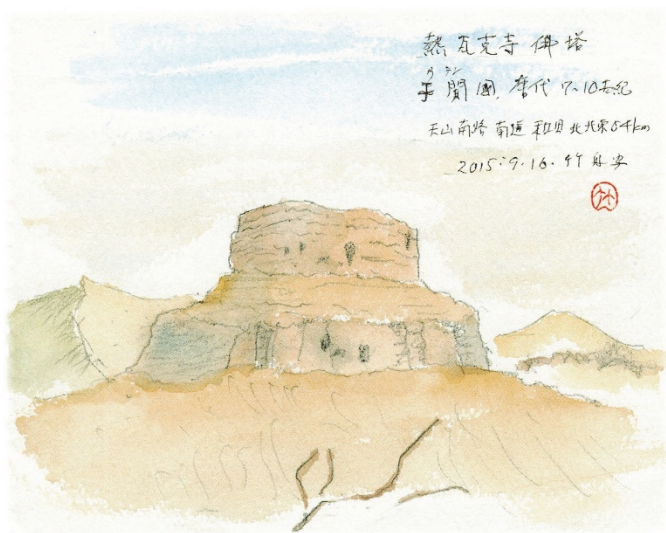
126

VII-15 胡楊

生キテ千年、枯レテ千年。胡楊は強靱な生命力を持つ巨木。2015年9月世界第2の広漠なタクラマカン砂漠を和田から庫車へ北上縦断した。崑崙山脈から流れ出る白玉河・黒玉河が貴重な玉石を運び、合流して和田河となり、砂漠を伏流してタリム河に合する。タマリスクや胡楊は5～10mもの根を下ろし、伏流水を捉える。この僅かな緑を目標に漠地を辿る。

砂漠の中程で胡楊の群落に出会った。幹は太く剛健、高さ2m位で強風で折れ、多くの枝を出す。広い葉が茂り、9月の黄葉が美しい。やがて紅葉となろう。

127



128

北は天山山脈、南は崑崙山脈に限られた世界第2の広漠たる砂漠の周辺オアシスを巡った。天山南路の北道と南道は絹の道として著名であるが、仏教伝来の道で仏跡が多い。南道西端、崑崙北麓の和田の北北東60kmにスタインが発見した熱瓦克(ラウク)寺跡がある。砂丘上の堅固な三層の仏塔を方形の囲壁が囲む。僧坊跡や説法広場が見て取れる。貴重な仏跡を風化より守るため大天蓋が構想されている。和田は天山南路南道の要衝で、古代の于闐国の地。

129



130

北道中央、天山南麓のスバシ寺院は庫車の北方にあるヤルダン地形を抜けた山麓にある。庫車河(タリム河支流)を挟み、西大寺と東大寺がある。

2015年9月西大寺に詣でた。堅固な城壁に囲まれた700×350mの広大な寺院跡。中央仏塔と東西南北に仏塔跡がある。講堂や僧坊と思われる遺跡が数々ある。

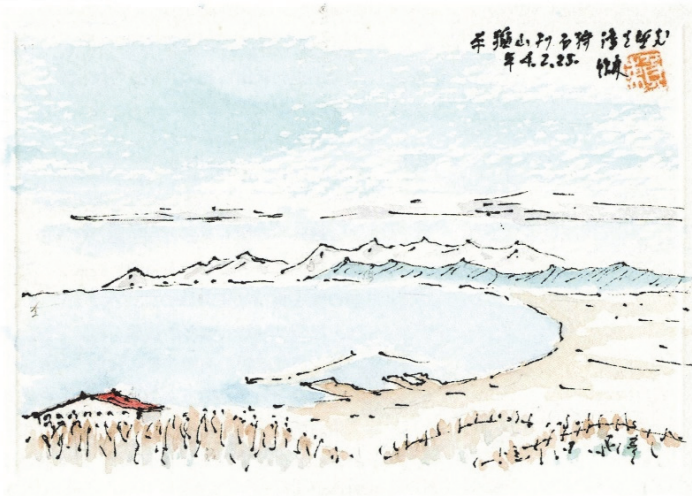
鳩摩羅什はここで3千人の僧に説法された。高僧はインド僧の父と龜茲国王の妹の間に生まれ、インドで修業し、梵語・漢語に通じ、数多の仏典を漢訳した。毎朝唱える阿弥陀経も高僧の訳。高僧が居られなかったら仏教は日本に伝わらなかったであろう。7世紀にここを訪れた玄奘三蔵は大唐西域記に「東西の昭估寺」と記されている。

おりしも夕暮れ、天も地も茜色、その向こうに浄土を見る思いであった。

合掌

131





132



134

1992年2月道南の名峰羊蹄山へスキーに出かけた。1898mの円錐状死火山で、山容麗しく、蝦夷富士と呼ばれる。山上より冬の気澄む。東北方の石狩湾が一望のもと。爽快この上ない。

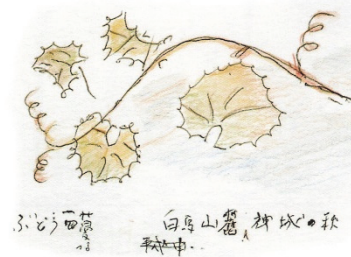
北海道の雪は乾燥粉雪。ウエヤーに付いてもポンと払えばすぐ落ちる。べとつく湿雪ではない。朝夕のアイスパンも少なく、初心者もスイスイと滑れる。石狩湾は波静か。スキーハウスの赤屋根が目にしみる。

133

東北八幡平

1992年10月盛岡での学会の帰途、八幡平を訪ねた。折から全山紅葉に染まり、絵巻物の様。八幡平より両沼を見渡した。

白樺の点景、沼は静か、各色競艶、錦の様である。八幡平は広い高原、酸ヶ湯温泉を廻り下山した。東北の秋を満喫した。



135



136

VIII-3 奥入瀬  
東北

りんどう  
秋気満堂  
雨を起る  
竹舟



1991年8月大湯環状列石を見学し、北の十和田湖へ、更に足を延ばして奥入瀬に遊んだ。緑深き溪谷に清流岸をなで、飛沫が涼しい。方々に細い滝が高く掛かり一層涼味を添える。

水色緑を映し、更に濃い。まさに洗心の想いであった。

137



138

VIII-4 志賀高原

かとうろこ  
秋気満々  
竹舟



1975年8月志賀高原へ。広大な高原は早や秋色。ヤマギランの紅が美しく彩る。熊の湯より前山湿原を訪れた。樹林亭々とし、爽涼の気満つ。樹林の向こうに横手山が望まれる。志賀高原は山・溪谷・深い谷・池塘・湿原・高山の魅力を備える。奥の発咄温泉や麓の渋温泉も良い。発咄からは北アルプスのパノラマが眺められ、渋からは北信五岳が望める。

渋から覗き峠を越え横手を巻いて、白根山を廻り、草津温泉に至る山旅は楽しい。

139





笠ヶ峰の白樺林  
 妙高山  
 二十世紀



野沢菜 二十世紀  
 笠ヶ峰の白樺林

VIII-5 笠ヶ峰の白樺林

妙高山麓の笠ヶ峰高原は広く静かな別天地。京大ヒュッテは欧風の木造山小屋で、度々世話になった。白樺の疎林を過ぎる高原の爽風、鳥の囀り、白雲一片悠々たり。

VIII-6 野沢菜

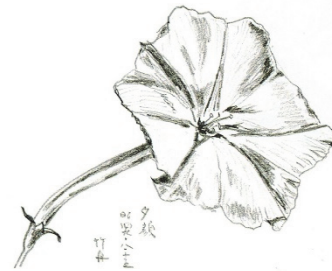
北信の宿ではいつも野沢菜が出る。しゃりとした食感、淡い酸味が忘れ難い。赤倉の温泉に浸り、妙高を仰ぎながら頂く野沢菜はこよない北信の思い出である。



小島草庵跡  
 親鸞聖人の御廟  
 並に其旧跡三月三日上間家発祥地  
 二十世紀  
 蘇峰文

VIII-7 小島の草庵 — 下間家発祥の地 —

鑑真・道元・親鸞は日本人の心に大きな影響を及ぼしている。下間家の祖 兵庫の守宗重は源平合戦で平家の公達の首を刎ね、入僧し、連座して三条河原で斬首される処、通りかかられた親鸞の「その命貰った」の一言により助命された。以後親鸞の越後流罪・関東布教に従った。武蔵の国下妻(現茨城県下妻)の小島草庵に尽力した。その功績碑に詣で、祖先を偲んだ。以後下間家は東本願寺の坊官(門首を補佐し寺務を司る)に任じた。維新に際し大谷家は朝廷に、下間衆は幕府についた。曾祖父頼世は榎本武揚に従い、五稜郭に籠った



土方歳三の戦死により、選挙で榎本が総裁に選ばれ、蝦夷共和国を樹立した。新政府に入れられず、西欧事情に詳しい榎本は露国へ公使として赴任した。頼一は報恩会(親鸞の縁を頂い門徒の会)の会長を務めている。



白馬三山  
八方池  
1977年

144



白沢峠より白馬連峰を望む  
1975.6.7 11時  
竹舟

VIII-8, 9 白馬三山

白馬岳2933m・杓子岳・白馬鍾岳2903mは北アルプスの名峰。雄々しく、気高く、美しい。東方白沢峠よりの全貌、八方尾根第3ケルン八方池よりの近景を載せる。

145

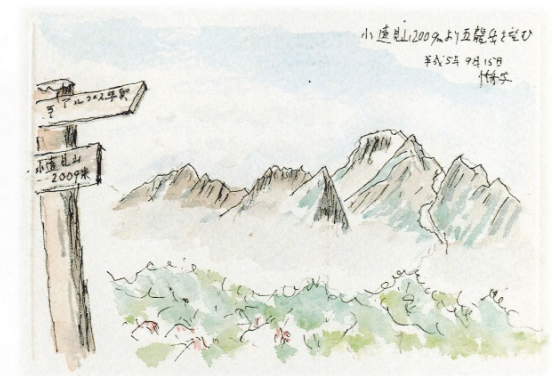


白馬三山 遠見尾根ケルン  
1992.11.5  
14時  
緒方

VIII-10 遠見尾根地蔵頭ケルンより  
白馬三山を仰ぐ

1992年11月関西大学同僚の緒方先生・樋口先生とJR大糸線神城のロッジに泊まり遠見尾根へ。地蔵頭ケルンの小窓にベルが吊ってある。紐を引くと涼しい音がこだまする。なんともシャイな趣。窓より白馬三山が望まれる。個性豊かな三山が岳人を招いている。

146



小遠見山2009mより五竜岳を望む  
1993.9.18  
竹舟

VIII-11 小遠見山より五竜岳を望む

白馬

1993年9月遠見尾根を登り、小遠見山2009mに達した。展望広開、眼前に五竜岳が聳える。信州の秋は早い。爽涼の風が涉って来る五竜岳は雪渓を伴い、群山を抜きんでる。岩峰・雪渓・雲気を置いて緑の茂み。遠見尾根はリーチが長いので人影まばら、稜線に腰を降ろして、麗姿と爽風を満喫する。山の醍醐味である。

147





148



150

VIII-12 大正池より焼岳を仰ぐ

上高地

花  
 水仙



平成3.7.10  
 河童橋より  
 竹舟 頼

清澄な梓川流れる上高地は、明治初年上条嘉門次の案内でWestonが発見した別天地。大正池の枯れ木を置いて仰ぐ焼岳は荒々しい肌を見せ、緑の群山と対比する。

ガレ場は噴火の跡を留め、水辺の白樺林が美しい。緑濃い田代池や明神池と異なりここは時が止まった静寂の世界である。

149

VIII-13 河童橋より明神岳を仰ぐ

上高地

花  
 桔梗



於  
 河童橋より  
 平成3.8.7

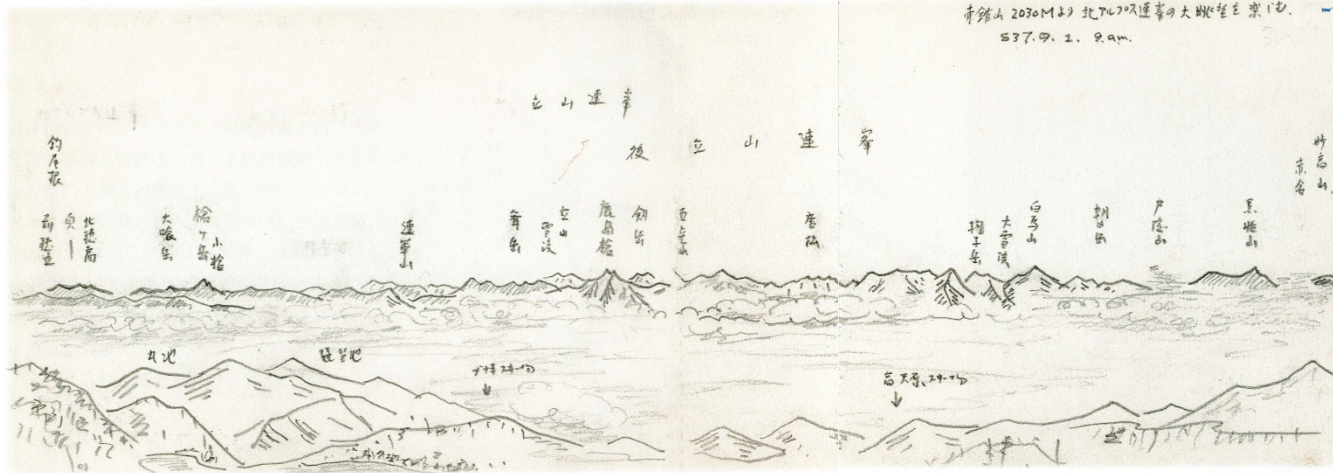
唯  
 心



著名な吊り橋河童橋よりそそり立つ明神岳を仰ぐ。ガレ場も多く眼前に迫る。梓川の清流に緑が映える。左手に珍しい川柳が垂れる。上高地へは関大同僚の中原先生と、穂高の初冠雪を見に徳本峠へ登った。ウエストンもこの峠を越えて上高地へ入った。11月第3週閉山の日、夕日に全山が金色に染まるのを見て、西方極楽浄土と思った。車の乗り入れが制限され、山の清浄が保たれているのは、喜ばしい。人々のマナーも良く、塵を残す人はいない。この至宝の桃源郷を長く保ちたい。

151





VIII-14 東館山より北アルプス連峰を望む

志賀高原の発湯温泉よりリフトで東館山2030mへ。西方北アルプスの大眺望を楽しむ。広闊雄大なパノラマである。



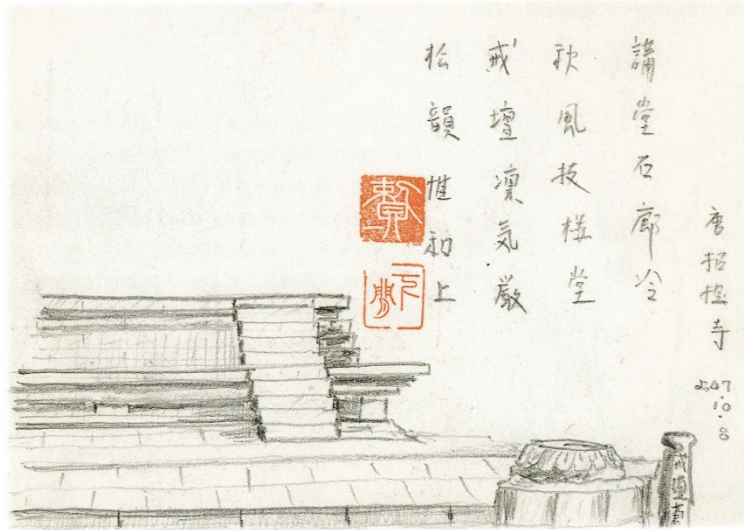
VIII-15 妙高山清冽 —水墨画に親しむ—



北信五岳の雄 妙高山(2446m)の雪景は清冽である。長野電鉄湯田中行きに乗り、延徳で降り膝を没する雪原へ。北信五岳(斑尾・妙高・黒姫・戸隠・飯綱)が全望できる。火口湖は大田切川となって流れる。麓は赤倉・燕など温泉も多く、静寂広闊の高原である。麓左に針葉樹林、麓右に広葉樹林。高谷池・黒沢池など高山池・雪渓・雷鳥・高山植物など高山の魅力をすべて備える。

鎖を伝って頂上に立つと素晴らしいパノラマ。眼前に北信五岳。西へ焼・火打・雨飾の頸城連峰。北アルプス・富士・佐渡島を望む。図は山麓いもり池よりの雪景。





156

VIII-16 唐招提寺戒壇 — 鑑真和尚跡 —

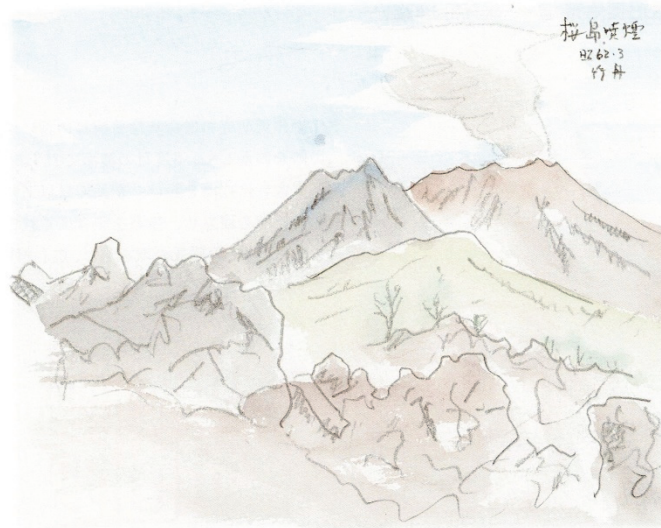
揚州天明寺の僧鑑真是普照等の請により、暴風・失明の難をおかして、5度目の渡海で753年来日された。

東大寺に戒壇を設け、聖武天皇以下に授戒された。後唐招提寺を建立し、律宗を開き広く教化された。戒壇跡に立ち、和上の授戒の声を感じ、洗心帰依の境に浸った。



法隆学問寺の印影

157



158

VIII-17 桜島噴煙

鹿児島より望む桜島の噴煙は朝な夕な誠に美しい。桜島は活火山、度々噴火する。1914年の噴火により、本島に連なった。一日山麓へ、溶岩岬々として行く手を阻む。山頂生色無く、噴煙天を覆い壮絶。

太古阿蘇山が噴火し、九州北島と南島が連なり有明海の火山灰入江が出来た。更に南では霧島火山脈の噴火があった。災害と共に温泉や勝景をもたらしている。

159



160

VIII-18 円月島

白浜は南紀の田辺湾の南岸にある風光明媚な保養地。  
白浜温泉は古来牟婁の湯として有名。専ら船便によっ  
ていたが、昭和初期に紀勢西線が開通して、急速に発展  
し西の熱海と言われていた。

田辺湾には京大の臨海研究所があり、京大生の頃便利  
に利用させて頂いた。田辺出身の植物学者南方熊楠の記  
念館や、外国船の見張所、最近ではパンダ公園が人気があ  
る。

湾内の円月島は昇る満月の如し、松の緑を添えて麗し  
く、一幅の絵画である。最近では執筆に疲れるとJRくる  
しお号で直行し疲れを癒す奥座敷としている。

161



162

VIII-19 楽茶碗 黒楽・赤楽 — 表千家と下間家 —

秀吉により茶頭に任じられた千利休は侘び茶の世界を  
開き、近世日本文化の興行きを深めた。茶道具に粋を凝  
らした。抹茶茶碗として、手先で作り、低火度で焼く味  
のある楽茶碗を好んだ。黒楽・赤楽があり、初代長次郎・  
三代道人作が有名である。二代掌麁が秀吉から楽印を賜  
り家号とした。

千利休は三代宗旦の代に、表・裏・武者小路の三千家  
に分れた。今日も三派が抹茶家元を代表している。表千  
家と下間家は二重の姻戚関係にある。維新の頃、下間富  
貴が表千家千宗左の室となった。姉知尾は武者小路千宗  
守の室となった。表千家より呉服豪商平井家に嫁しその娘  
が筆者の母である。従って千宗左宗匠と筆者は又従兄で  
ある。戦前祖母に連れられ、小川頭の表千家に伺った。  
薄手瀟灑な黒楽は号を黒若松、厚手華麗な赤楽は逸品で  
ある。

163





164



166

### IX-2 南国の甘い白花 サヌールビーチホテル

バリ島のデンパサールでは立派なりゾートホテルに泊まった。生花は誠に美しく、南国情緒万点である。

白・ピンク・紫と華やかに咲き、甘い香りを振りまく。バリ島ならではのおもてなしを嬉しく受けた。

### IX-1 バリ島サヌールビーチ

1989年1月バリ島を訪れた。南岸のSanur beachは白砂青椰子の美しい海岸。双胴船が浜に休んでいる。遠浅で何処まで行っても背が立つ。南国情趣豊かな静かな浜辺であった。

バリ島は仏教・ヒンズー教文化の影響が濃い。イスラム教はここまでは来ていない。影絵劇やケチャダンスなど伝統の郷土文化が残る。

165



### IX-3 Moai, Afu Tongariki Easter Isl.

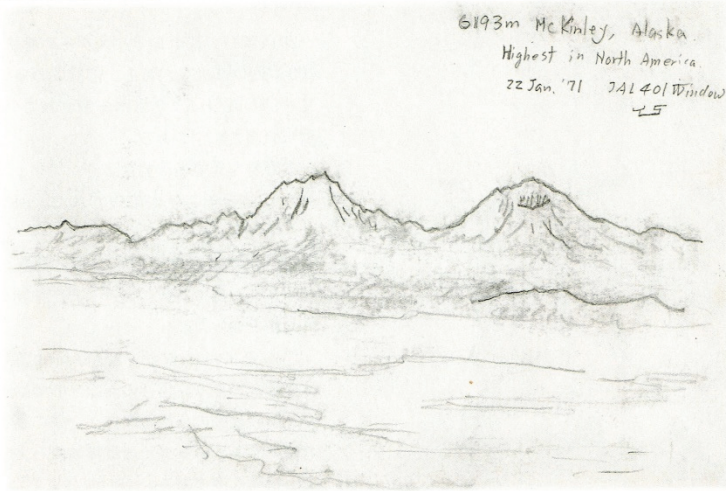
2014年11月憧れのイースター島を訪れた。100体近いモアイがある。部族間の争いでモアイ倒し戦争によりすべて倒されていたが、近來修復されつつある。

左野勝司氏等の尽力により、アフトンガリキの15体のモアイが修復された。図はその一体である。

汎太平洋に広がる巨石文明は絶海の孤島イースター島で特異に発達した。独特の形の長身像となった。

片山先生によると、基壇Afuは墓、Moaiは墓碑だと言う。信仰の対象として始まったが、部族社会の象徴となり、やがて墓となったのであろう。モアイは世界の巨石文明の中でも特異な例である。

167

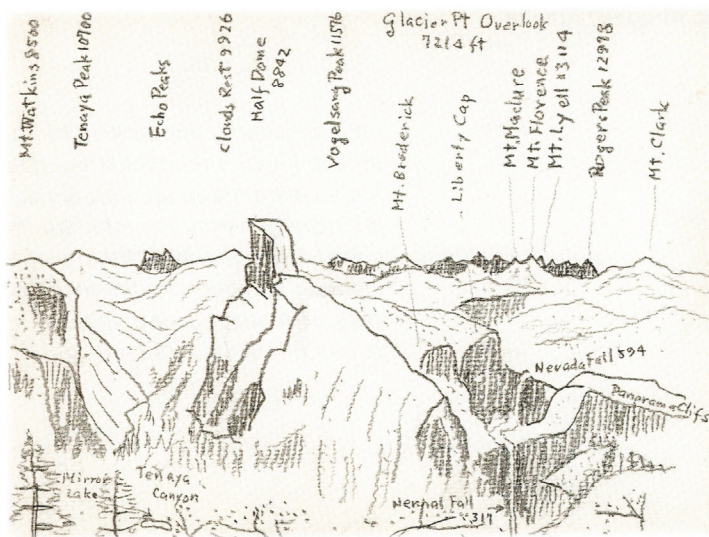


168

アラスカは茫洋たる褐色と氷雪の世界。JAL機上より望んだ。マッキンリー山は南峰6149mと北峰5934mよりなる。両峰は約3km離れて南北に連なる。雄々しく厳しい名峰。雪山が氷河となり褐色の澱みへ移り行く。

1910年北峰、1934年南峰初登頂。1960年日大隊と早大隊が試みた。1972年植村直巳は南峰単独登頂。その後植村は冬季単独行を試み登頂後消息を絶った。偉大な岳人の栄光の記録を称えご冥福を祈る。

169



170

1965年10月ヨセミテ国立公園を訪れた。Rocky山脈中の勝景としてよく整備されている。Yosemite Lodgeに泊まり周遊した。Glacier Point Overlookからの眺めは秀逸である。Half Domeは珍しい景観。Nevada FallやTenaya Canyonはこの上なく美しい。北米の上高地と言う処か。

171





172

x-3 Mt. Rundle, Banff 国立公園

Canadian Rockyの秀峰ルンドル山は褶曲山脈が剪断された異常な山容である。バンフ国立公園には Sulfer山など多くの秀峰がある。バンフは登山基地の街として行き交う人々も悠々と過ごしている。初秋の気漂うバンフの1日を楽しんだ。



173



x-4 Lincolnの古田邸

米国中部のNebraska州の州都リンカーンに娘一家が住んでいた。農学で有名なネブラスカ大学に留学していた。1995年の春その2階を宿として北米各地を周遊した。コロニア風のピンクの家は元大学教員の宿舎として建設された。広い間取り、行き届いた設備にさすがと感心した。芝生は広すぎて手入れが大変であった。孫は幼稚園で土地の子供たちと遊びに耽り、すくすくと育っていた。良き思い出の一駒である。

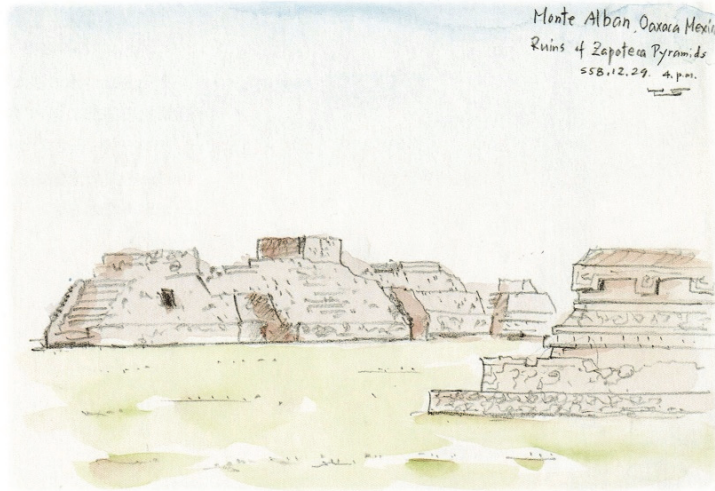
174



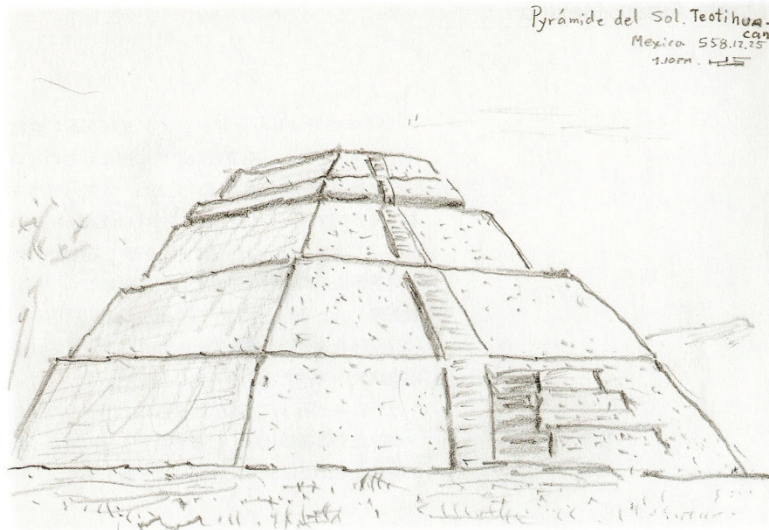
x-5 Empire State Building, NY

そそり立つ槍の様なビル。米国繁栄の象徴であろう。サンフランシスコのGolden Bridgeと共に米国の良き時代のシンボルである。

175



176



178

1984年12月メヒコを訪れグアダハラから空路太平洋岸のオアハカへ、空港着陸直前幸運にも左の丘の上にモンテアルバン遺跡の全容が見えた。オアハカ市を見下ろすモンテアルバン(白い山)を中心にZapotec族の文化が発達した。Oaxacaは民族文化を伝える中世都市。マヤ文明とほぼ同じ時期、その影響を受けながら独自文化を創造した。参道を登る。Alfonso Cuso像やBall Court(球技場)を過ぎ、Tomba 104, 107などに至る。構想の規模雄大、ザボテックの高度な文化を示す。

方形広場を囲み四方に堅固な基盤、20以上のピラミッドが佇立する様は壮観、想像を絶するものがあった。

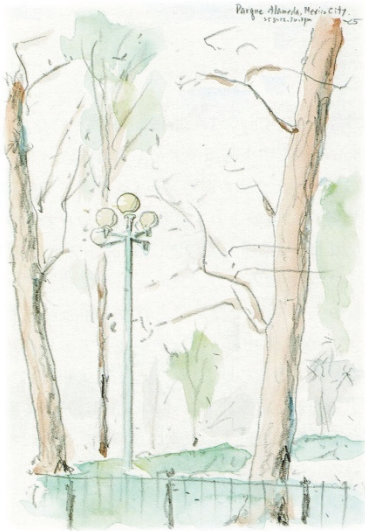
中米に栄えたインディオ文化の一端を見た。

177

1983年12月Mexico CityのTeotihuacan遺跡を訪ねた。市の東北50kmにある中央高原最大の宗教都市。メキシコ文明の建設者トルテック族の遺跡。多くの神殿や祭祀広場が整然と計画的に建設された。特に太陽や月のピラミッドは巨大広壮。4階層で底辺200m、高さ60m、1億個の日干しレンガを積み上げ、表面を石灰で覆っている。BC4世紀からの内乱で滅んだと言う。頂上に立つと360°の大眺望が見渡せる。ケップールコアトル神殿など、広大な神殿。微風心地よい。夏至の日太陽はピラミッドの真上を通ると言う。トルテックの時代に初めて象形文字や暦が用いられた。その戦士の像は尚武の気風をよく表している。

179

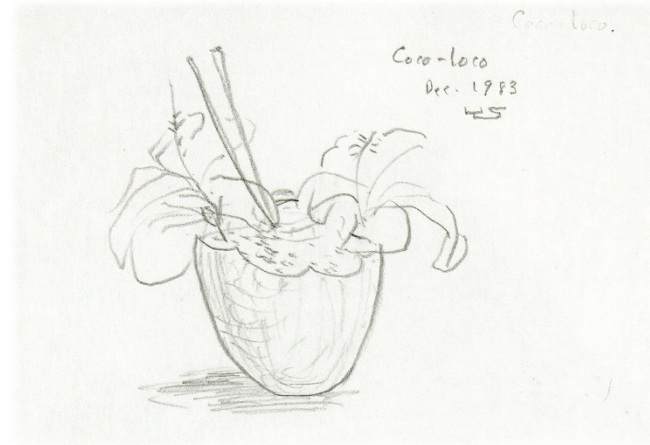




xi-3 Parque Alameda, Mexico City

12月30日水郷Xochimilcoを巡り、  
昼食後アラマダ公園を散策した。淡  
い陽光が木々照らし、絵心しきり。  
水彩に時を忘れ、静かな時を楽しむ。

180



xi-4 Coco- loco 南国の甘味

食後の一時南国の飲み物を楽しむ。果実を割り白い花をあしらったデザイン。爽味この上なし。

181



Castillo, Maya Ruins of Chichen Itza, Ucatan Mexico 8 Jan'99 4 Shimetsu

182

xi-5 Chichen Iza

メキシコユカタン半島のジャングルにMaya文明の遺跡が多数残る。チェチェンイツァは1984年1月と1991年1月の2回訪問した。四角の基壇上に幾層にも築かれたピラミッドは壮観である。地下に埋葬者の墓があり、王の墳墓と考えられる。

マヤはインカと共にアメリカ原住民インディオの高度な文化を残した。800年にわたる繁栄も頂点に達した頃、スペインがやって来た。天文・暦・数学・象形文字などを生み出した。1年を365日とし、誤差0.0002日驚異的な高度な暦である。秋分の日右手階段の側面に太陽が大蛇の影を落とす。独特の美意識を感じた。

183



xi-6 Gota del Oro, Oaxaca

黄色い小花この上なく愛らしい。思わず筆を走らす。

184

xi-7 TürkeiのBoluの小花

紫の小花こよなく美しい。



185

### 略年譜

- 1926年 京都に生まれる。 仏教的雰囲気(東本願寺)
- 1933年 植柳小学校入学 広田先生に綴り方を習う。
- 1939年 京都府立1中入学 谷口先生に数学を習う
- 1945年 第三高等学校入学(理甲) 寮生活
- 1950年 京都帝国大学工学部機械工学科卒 佐々木先生
- 1958年 京都大学大学院(旧工学研究科)退 藤野先生
- 1958年 関西大学専任講師(工学部機械工学科)機械設計学
- 1959年 同 助教授 1961年工学博士(旧 京大)
- 1962年 同 教授 1964年 スイス留学 菅原先生  
東本願寺大谷祖廟観恩会会長
- 1962年 スイス留学以来50年間、画帳を携え技術文化史の实地調査に出掛けた。夏休・冬休・春休を利用した。仏跡・シルクロード・欧州・オリエント・インド・北中南米・東南アジア等。
- 1995年 関西大学定年 名誉教授 機械学会名誉員 著書 7点、
- 2007年 瑞寶中綬章を授与される。 研究発表・学術論文約500編

186

スケッチ

篆刻

水墨画

安江先生に図画を習う  
スケッチを始める。

絵心しきり、モノクロスケッチ

藤本嵐峰先生に  
師事 雅号竹舟

安田先生  
に師事

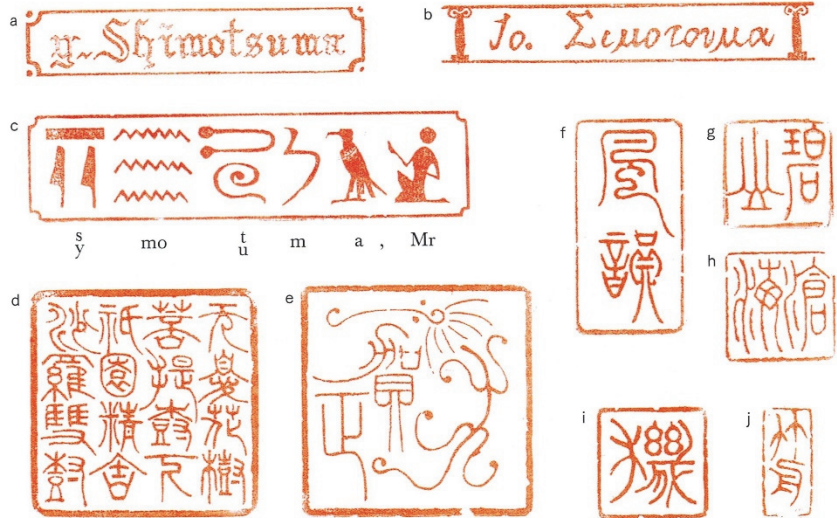
画帳を携えアルプス旅行  
絵心盛ん  
透明水彩画を画く

西冷印社訪問  
山口碩堂先生  
に師事

中国山水画

187





188

竹舟印譜

- a. ゴシック体 氏名印
- b. 現代ギリシャ文字 氏名印
- c. 古代エジプトのヒエログリフ(聖刻文字) 氏名印
- d. 釈尊の生涯 無憂花樹の下で誕生 菩提樹下で解悟 祇園精舎で説法 沙羅雙樹の下で涅槃に入られた
- e. 年賀印(辰)
- f~h. 季節印
- i. 機
- j. 竹舟

謝 辞

1940年(昭15年 15歳)京一中2年の時安江先生よりスケッチの手ほどきを受けてより、74年がたった。良き先生・良き友・良き学園、そして心と体の健康に恵まれ、今も目前となった。画帳を携えての外遊は百回を越え、画帳は40余冊となった。この間行を共にし誠心協力された緒方正則先生、最高の研究秘書として尽力された塩津宣子氏、出版に際し格別のお世話を頂いた、同朋舎の平瀬克哉氏に満腔の謝意を表す。

関西大学機械設計研究室の室義一郎氏を始め、千数百名の卒業生の永年のモラルサポートに感謝する。茶庭の手水鉢に蹲ばって手を洗う。「つくばい」とも云う。京都嵯峨の龍安寺のつくばいに「吾唯知足」(禅語)の銘がある。

敬天愛人。吾唯足ルヲ知ルの心境に達したい。

2015年 仲秋の名月を仰いで

下間 頼一



189

水彩スケッチ紀行 【非売品】

発行日 平成27年12月1日

著者 下間 頼一

印刷・製本 株式会社 同朋舎

©Yorikazu Shimotuma 2015 Printed in Japan



漢の瓦文(篆刻)

前漢の西安の都より出土した軒瓦の文様を模刻した。

「天下ニ甲タリ」は天下第一の意。白鹿中原に現れるは天下第一の瑞兆。秦の偉業を継いで天下を統一し、初めて安寧の世を現出した気宇がみながっている。

1987年元旦